

静岡県月例経済報告

(令和8年4月号)

……令和8年2月を中心とした県内経済のすがた……

No. 600



静岡茶ブランディングプロジェクトロゴ
静岡県：無断転載・転用禁止

— 静岡県経済産業部 —

目 次

I	静岡県経済の概況	1
II	静岡県主要経済指標の概況	10
	・ 需要面	10
	・ 生産面	18
	・ 雇用面	20
	・ その他	23
III	静岡県主要産業の動向	27
IV	データからみた県内主要産業	30

利用にあたって

- 1 本月報は、本県経済の状況について、経済統計及び産業動向をとりまとめたものである。
- 2 本月報は4部から構成されている。
- 3 第1部では、本県経済の概況について経済統計データを中心に述べているが、指標によっては当該月データが未公表のため前月値を用いる場合がある。これらの指標は文中に示している。
- 4 第2部では、本県経済の動向について主要経済指標を用いて、データとグラフで示している。
- 5 第3部では、本県の主要産業動向について簡単にまとめている。
- 6 第4部では、本県の主要産業動向についてデータで示している。
- 7 本月報で用いた ▲はマイナスを表している。
- 8 数字の単位未満は四捨五入することを基本としているが、情報提供元の公表方法に準拠させている。

この「静岡県月例経済報告」は、静岡県経済産業部のインターネット・ホームページに掲載しています。

ホームページアドレス(URL)

<https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/keizaisangyo/tokeishiryu/getsureihokoku/index.html>

I 静岡県経済の概況

〔 本稿は、令和8年2月を中心とした経済統計及び企業ヒアリングをもとに取りまとめている。 〕

概 況

令和8年2月を中心とした静岡県の景気は、緩やかに持ち直している。

先行きについては、全体としては持ち直しの動きが期待されるが、中東情勢の影響や物価動向などの景気を下押しするリスクに留意が必要である。また、雇用・所得環境や金利・為替の動向等に十分注意する必要がある。

雇用情勢は、改善の動きに弱さがみられる。

- ・ 個人消費は、物価上昇などの影響がみられるものの、緩やかに増加している。
- ・ 設備投資は、製造業を中心に増加している。
- ・ 輸出は、持ち直している。
- ・ 生産は、横ばいとなっている。

（下線部は前月からの変更箇所）

需 要 面

「個人消費は、物価上昇などの影響がみられるものの、緩やかに増加している」

大型小売店販売額（2月）は、百貨店が2か月連続、スーパーが16か月連続で前年実績を上回ったため、総額でも16か月連続で前年実績を上回った。

専門量販店等販売額（2月）は、ホームセンターが2か月ぶりに前年実績を下回ったものの、家電大型専門店が2か月連続、コンビニエンスストアが12か月連続、ドラッグストアが6か月連続で前年実績を上回ったため、総額でも2か月連続で前年実績を上回った。

自動車(新車)新規登録台数（2月）は、軽自動車が2か月ぶりに前年実績を上回ったものの、乗用車が2か月連続で前年実績を下回ったため、総数でも2か月連続で前年実績を下回った。

「住宅建設は、前年を下回った」

新設住宅着工戸数（2月）は、貸家が2か月ぶりに前年実績を上回ったものの、持家、分譲住宅がいずれも2か月連続で前年実績を下回ったため、全体でも2か月連続で前年実績を下回った。

「公共投資は、前年を下回った」

公共工事請負金額(2月)は、2か月連続で前年実績を下回った。

「設備投資は、製造業を中心に増加している」

日銀短観(12月調査)の令和7年度の設備投資（含む土地投資）（計画）は、製造業、非製造業、全産業においていずれも増加する計画となっている。

また、ソフトウェア・研究開発を含む設備投資（除く土地投資）（計画）は、製造業、非製造業、全産業においていずれも増加する計画となっている。

着工建築物床面積（非居住用）（2月）は、7か月連続で前年実績を下回った。

「輸出は、持ち直している」

「輸入は、前年を上回った」

輸出総額（2月）は、原動機が5か月連続、エアコン、科学光学機器がいずれも4か月連続で前年実績を下回ったものの、自動車は2か月連続、自動車の部分品が7か月連続、二輪自動車類が5か月連続で前年実績を上回ったため、総額でも5か月連続で前年実績を上回った。

また、輸入総額（2月）は、パルプが6か月連続で前年実績を下回ったものの、紙類及び同製品が7か月ぶり、原動機、自動車の部分品がいずれも2か月ぶり、魚介類及び同調製品、木材がいずれも3か月連続で前年実績を上回ったため、総額では2か月ぶりに前年実績を上回った。

なお、輸出入のバランスは、1,102億円の輸出超過となった。

生産面

「生産は、横ばいとなっている」

鉱工業生産指数（2月）は、食料品・たばこ3か月ぶり、電気機械が4か月連続、パルプ・紙・紙加工品が2か月連続で前年水準を下回ったものの、はん用・生産用・業務用機械が3か月ぶり、化学が4か月ぶり、輸送機械が3か月連続で上回ったため、総合でも2か月ぶりに前年水準を上回った。なお、前月比は2か月ぶりに減少した。

鉱工業在庫指数は、総合では6か月連続で前年水準を上回った。

雇用面

「雇用情勢は、改善の動きに弱さがみられる」

有効求人倍率（2月）は1.06倍となり、前月と同水準であった。61か月連続で1倍台となった。また、全国値を0.13ポイント下回った。

雇用保険受給者実人員（2月）は、9か月連続で前年実績を上回った。

また、所定外労働時間指数（1月）は前年実績と同水準だった。

その他

「金融環境は、貸出残高は前年を下回り、信用保証金額は前年を上回った」

県内金融機関の貸出残高（2月）は、前年同月比 2.4%増と前年実績を上回った。

信用保証協会保証金額（2月）は、前年同月比 36.9%増と前年実績を上回った。

「企業倒産は、件数は前年を下回り、負債総額は前年を上回った」

企業倒産（2月）は、件数は17件（前年同月比 5.6%減）と前年実績を下回り、負債総額は1,895百万円（同 22.7%増）と前年実績を上回った。

世界で愛されるジャパンブランドへ。

静岡茶ブランディングプロジェクト ブランドネーム・ロゴ・アクションプラン決定。

静岡県では、2025年～2028年の4年計画として「茶業振興計画」を推進している。本計画における施策の3本柱(1.茶業の構造改革による生産力の強化 2.輸出拡大と供給力の強化 3.静岡茶ブランドの構築と文化の継承)の一つとして、2025年7月「静岡茶ブランディングプロジェクト」を始動し、各種の取り組みを進めてきた。この度、4月14日(火)、鈴木康友知事は、本プロジェクトのブランドネームとロゴマーク、及び今後のアクションプランを発表した。



静岡茶ブランディングプロジェクトとは

日本を牽引する茶産地である静岡県が、世界に向けて静岡茶の価値を再定義し、日本発のグローバルブランドとして世界に発信する取り組み。鈴木知事のもと、クリエイティブディレクターの佐藤可士和氏を総合プロデューサーとして迎え、生産者・茶商・あらゆる茶業関係者が一丸となって共創・進行している。

【静岡茶の現状・課題】

■ 生産者の高齢化と後継者不足により、茶生産の担い手は大きく減少。

- ・生産者の高齢化・後継者不足が深刻化。1965年に6万8373戸だった茶栽培農家数が、2025年には5827戸に。
- ・茶園面積と荒茶生産量も年々減少。1985年には2万3000haだった茶園面積も、2025年には1万1600haに。

※出典:農林業センサス、農林水産統計(農林水産省)

■ 荒茶生産量は鹿児島県に抜かれ、統計開始以来初めて2位へ。

- ・1959年の調査開始以来初めて、2024年の荒茶生産量で静岡県は鹿児島県に抜かれ、2年連続で2位となった。

■ 世界的な抹茶ブームに対する戦略的対応が遅れている。

- ・抹茶を中心に海外需要が拡大し、2025年の輸出額は721億円と、過去最高だった2024年の約2倍に急増。しかし静岡では抹茶の材料になるてん茶の生産が少なく、需要に応えられる十分な生産体制が整っていない状況にある。

■ 「プレミアム茶」としてのブランドイメージが不十分。

- ・静岡茶の世界での認知度の低さに加え、国内でもプレミアム茶のイメージが不十分であることが課題に。

■ 人口減少や文化の変容等により、国内需要が頭打ちになっている。

- ・生活様式の変化やペットボトル飲料の普及等による若年層の「急須離れ」が顕著。
- ・急須で淹れるリーフ茶の消費量は減少する一方、ティーバッグやペットボトル緑茶の消費は増加。

【静岡茶ブランディング・プロジェクトの目的】

プレミアム・グローバルブランディング

静岡茶の本質的価値の向上と、世界に対しての認知拡大を狙うため、当プロジェクトは、プレミアム・グローバルブランディングを目標に掲げ、遂行していく。プロジェクトの立ち上がりとして、ブランドネーム・ブランドロゴ・ブランド定義・初期アクションプランを策定。

参考:静岡県公式ホームページお茶振興課

<https://www.pref.shizuoka.jp/kensei/introduction/soshiki/1002123/1041029/1027271.html>

【ブランディングプロジェクトネーム】

JAPAN TEA SHIZUOKA

歴史的輸出茶ラベル「蘭字」で使用されていたネーミング「JAPAN TEA」に、地域ブランド「SHIZUOKA」を加え、ブランディングプロジェクトネームとした。「静岡」「お茶」「日本」という要素を全て網羅したこの名前で、世界に対してブランド構築していく。

【ブランドロゴ・コンセプト】

現代の蘭字

ブランドロゴ・コンセプトは、「現代の蘭字」。歴史的輸出茶ラベル「蘭字」を現代的に再解釈し、デザイン化。日本、そして静岡のシンボルでもある雄大な富士山と、その前に広がる茶畑という、静岡茶を代表する風景をモチーフとし、特徴的なオリジナルフォントで、JAPAN TEA SHIZUOKAを力強く表現。

蘭字とは

幕末の開港により輸出茶が始まり、当初の茶箱には錦絵師による「茶箱絵」が貼られていた。その後、茶の種類や商標を記した輸出ラベル「蘭字」が作られるようになり、明治期以降広く使われるようになった。蘭字は浮世絵職人によって作成され、カラフルな多色刷りで、富士山や桜など、日本を象徴するモチーフの絵が配置されており、「JAPAN TEA」と記されていた。日本文化を海外に伝える広告に似た意味もあったと見られており、日本のグラフィックデザインの先駆けとも言われている。

公益社団法人日本茶業中央会所蔵



【ブランド定義】 JAPAN TEA SHIZUOKAの定義

静岡県産一番茶100%使用&静岡県内仕上げ加工100% 100%SHIZUOKA FIRST FLUSH&CRAFTED

地域団体商標では、静岡県内産茶葉100%使用したものを「静岡茶」と定義している。今回のプロジェクトでは、ここにさらに茶葉の品質や加工技術の高さを反映するため、静岡県産の一番茶品質と仕上げ加工技術の高さを同時に訴求。静岡茶ブランドのプレミアム価値を高め、生産者・茶商・その他関係者を含めた静岡の茶葉全体にブランド価値が波及する効果を目指す。

【静岡茶の理解を深めるためのコアバリュー】

静岡：日本のリーディング茶産地

SHIZUOKA: JAPAN'S LEADING TEA REGION

静岡県については、①歴史②生産量・出荷量③産地多様性④技術力(深蒸しや煎茶の開発に寄与)⑤関連産業の集積などの要素から、「JAPAN'S LEADING TEA REGION(日本のリーディング茶産地)」と説明できる。

■ 多様な茶産地

江戸時代の東海道五十三次のなかで数多くの宿場を有していた静岡は、多様な茶産地が広がる茶文化の歴史的集積地でもある。

<多様な茶産地>

富士 富士宮 沼津 清水 両河内 浜松 静岡 本山 藤枝 島田 川根 金谷 牧之原 御前崎 菊川 掛川 御殿場 森 袋井 磐田 天竜 春野

FUJI FUJINOMIYA NUMAZU SHIMIZU RYOGACHI HAMAMATSU SHIZUOKA HONYAMA FUJIEDA SHIMADA KAWANE KANAYA MAKINOHARA OMAEZAKI KIKUGAWA KAKEGAWA GOTEMBA MORI FUKUROI IWATA TENRYU HARUNO

【アクションプラン】

JAPAN TEA SHIZUOKAを広げるための今後のアクションプランとして、以下を予定。

① WEBサイト制作

WEBサイトを制作し、JAPAN TEA SHIZUOKAプロジェクトの内容を発信していく。

② 公式ノベルティ制作

ノベルティグッズとして、JAPAN TEA SHIZUOKAのオリジナルTシャツ、ミニ茶箱、はっぴ、エプロンなどを制作。JAPAN TEA SHIZUOKAを国内外に発信し、認知度向上とともに、静岡茶ブランドの支持層を広げていくためのツールとして活用していく。

③ オリジナル商品の販売

多様な静岡茶の味わいを伝えるティーバッグセットなど、オリジナル商品の販売も検討中。

④ TEA TOURISM(ティーツーリズム)茶体験によるブランド価値向上

世界文化遺産「富士山」と美しい「茶畑」の景観のなかで味わう静岡ならではの特別な茶体験を通して、世界中の人々にJAPAN TEA SHIZUOKAのプレミアムブランド価値を高める。

⑤ 海外でのPR発表会

世界の茶業界の中心となる学術的会合・商談会でのブランド発表やPRを継続的に実施していく。

開催場所(予定):米国カリフォルニア大学UCデービス校のコロキウムや、ドイツ・米国などのお茶のトレーディングショーなど。



【JAPAN TEA SHIZUOKA 公式ホームページ】
<https://japan-tea-shizuoka.com/>





静岡県は

パートナーシップ構築宣言

を促進しています

県では、適切な価格転嫁の機運醸成や取引適正化に向けて、令和5年6月7日に産官労の13団体で「パートナーシップ構築宣言の普及・促進と実効性向上に向けた共同宣言」を行い、参画団体が連携して取組を進めてきました。

この取組をより一層推進するため、令和7年9月9日、新たに金融2団体が参画し、内容を拡充した共同宣言(裏面)を発出しました。



▲ 共同宣言式の様子(令和7年9月9日)

パートナーシップ構築宣言とは



「パートナーシップ構築宣言」は、サプライチェーンの取引先や付加価値向上を図る事業者の皆様との連携・共存共栄を進めることで、新たなパートナーシップを構築することを、「発注者」側の立場から企業の代表者の名前で宣言するものです。

パートナーシップ構築宣言登録数 (R8. 3. 31時点)

全国
6位

県内

4,200社

全国

88,837社

優遇措置・メリット

パートナーシップ構築宣言を宣言・登録した企業は、以下のような優遇措置・メリットが受けられます！

- 県補助金の加点措置等
- 企業イメージの向上
- 官公需における公契約条例に基づく優先発注
- 取引先との信頼関係構築

登録後にお願いしたいこと

パートナーシップ構築宣言の登録後も、宣言の実効性向上のため、以下の取組をお願いします

- 社内外への宣言の周知
- 定期的な宣言内容の見直し
- 宣言内容の実行
- 代表者や担当者等、登録情報が変更になった場合の登録変更

静岡県「パートナーシップ構築宣言」ホームページ
静岡県 経済産業部 商工業局 商工振興課
TEL : 054-221-2182

URL : <https://www.pref.shizuoka.jp/kensei/introduction/soshiki/1002123/1054361.html>



「パートナーシップ構築宣言」の登録はこちら
(公財)全国中小企業振興機関協会
TEL : 03-6228-3802

<https://www.biz-partnership.jp/>

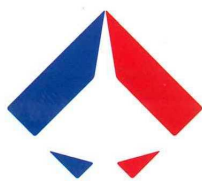


<トピックス>



ホビー
のまち
静岡
HOBBY CITY SHIZUOKA

RCカーフェスティバル
in ホビーのまち静岡
静岡市南部体育館で開催!



第64回

模型の世界首都へようこそ

静岡ホビーショー

入場
無料

業者招待日

メーカー各社新製品展示
業者商談会

小中高校生招待日

一般公開日

第35回モデラーズクラブ合同作品展
各社ブースにて大即売会

5/13水・14木

9:30-16:30 9:30-16:30

15金

9:00-17:00

16土・17日

9:00-17:00 9:00-16:00

会場: ツインメッセ静岡 (静岡市駿河区曲金3丁目1番10号) お問い合わせ: 静岡模型教材協同組合 054-287-5931



主催/静岡模型教材協同組合 協賛/日本プラモデル工業協同組合・日本ラジコン模型工業会・(公財)静岡産業振興協会
後援/静岡県・静岡市・静岡商工会議所・関西模型卸会・名古屋模型流通協議会

公式ホームページ www.hobby-shizuoka.com

ご来場は事前登録が必要になります。
詳細はWEBサイトをご覧ください。(上のQRコードでアクセスできます)

業者招待日(5/13・14) 一般公開日(5/16・17) ご案内

※一般公開日は受付を終了しました。

<トピックス>

～静岡県月例経済報告 600 回記念コラム～

- ・静岡県月例経済報告は昭和 51 年 4 月に「静岡県の経済動向－月例経済報告－」として、発行が始まり、今回で 600 回となり、半世紀の歴史を刻むこととなりました。
- ・当時は現在の様に、インターネットやメールなども無いなかで、情報を収集し、手書きで作成されていました。
- ・今回は、先人の思いを踏まえ、50 年前と現在の静岡県経済を比較しました。

○発行当時の日本経済の情勢

オイルショック等の影響による戦後初のマイナス成長からの回復基調を維持しつつも、ジグザグ型の不安定な回復過程。これは、世界経済の鈍化や財政支出の遅延による需要の伸び悩み、企業の過剰在庫と慎重な生産態度、さらに企業の「減量経営」への転換といった構造的要因が複合的に作用したため。結果として、経済全体では回復したものの、企業や家計の景況感は改善が遅れ、不況の影が色濃く残る年だった。(経済企画庁昭和 52 年年次報告書より要約)

○発行当時の静岡県の経済概況(昭和 52 年 1 月発表)

静岡県経済は依然として景気回復力は弱く、百貨店売り上げの伸び悩みなど期待された歳末需要は盛り上がりを欠いた。一方、金融の緩和基調のなかで、倒産は高い水準にあり、労働需給も改善を見せていない。

○発行当時(1976年:昭和 51 年)と現在の静岡県経済の比較

項目	1976年(昭和51年)	2025年(令和7年)	増減(率)
人口(10月時点)	334.1万人	349.2万人	3.2%
年平均対米ドル為替レート	296.8円※1	157.56円※2	▲46.9%
消費者物価指数(全国) (2020年基準)	58.1	111.9	92.6%
名目県内総生産(年度)	4兆2,770億円	19兆1,182億円※3	347.0%
製造品出荷額等(年)	5兆9,390億円	19兆7,732億円※4	233.0%
製造業事業所数	29,259カ所	10,588カ所	▲63.8%
製造業従業者数	469,143人	408,807人	▲12.9%
輸出額(年)	6,616億円※5	2兆1,656億円※6	227.3%
輸入額(年)	2,910億円※5	1兆3,726億円※6	371.7%

出典等※1 税関公示レート、※2 三菱東京UFJリサーチ&コンサルティング、※3 2023年度、※4 2023年

※5 県貿易実態調査、※6 清水税関支署管内貿易概況速報

○1976年のトピックス

【全国】

- ・ロッキード事件発生
- ・モントリオール五輪開催
- ・「およげたいやきくん」ヒット
- ・「徹子の部屋」放送開始

【静岡県】

- ・県政 100 周年
- ・第 18 回全国菓子大博覧会開催

II 静岡県主要経済指標の概況

需 要 面

1 個人消費

(1) 大型小売店販売額

2月 = 36,973百万円

*前年同月比： 3.6%増

(県内3百貨店、163スーパー合計)

<概況>

2月の大型小売店販売額は36,973百万円で、前年同月比 3.6%増となり、16か月連続で前年実績を上回った。

業態別にみると、百貨店（前年同月比 1.7%増）が2か月連続、スーパー（同 3.9%増）が16か月連続で前年実績を上回った。

商品別では、衣料品（同 9.0%減）が14か月連続、身の回り品（同 1.8%減）が16か月連続で前年実績を下回ったものの、飲食料品（同 3.3%増）が19か月連続、家庭用品（同 8.8%増）が2か月連続で前年実績を上回った。

なお、店舗数調整前の前年同月比は1.9%増と、26か月連続で前年実績を上回った。

<最近の動き>

	R7年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8年1月	2月
販売額（百万円）	39,801	40,744	37,392	39,321	40,885	48,140	41,546	36,973
前年同月比（%）	1.7	1.1	1.5	4.7	5.5	0.8	3.7	3.6
うち百貨店（%）	▲4.2	6.1	▲7.4	2.3	1.7	▲2.5	0.7	1.7
スーパー（%）	2.7	0.5	3.0	5.2	6.2	1.5	4.2	3.9
(参考1)全国前年同月比（%）	0.4	1.8	1.9	3.3	3.2	▲0.1	2.6	1.8
うち百貨店（%）	▲6.1	2.5	1.4	4.2	0.9	▲1.0	2.4	2.0
スーパー（%）	3.1	1.6	2.1	3.0	4.2	0.4	2.6	1.8
(参考2)県前年同月比（店舗数調整前）	1.9	2.1	2.2	4.7	5.3	0.6	2.7	1.9

(注1) 販売額は店舗数未調整、前年同月比は店舗数調整済、全月速報値

<資料>経済産業省

(注2) 令和2年3月に調査事業者の見直しを行ったため、前年同月比の計算についてはリンク係数処理済み

<商品別前年同月比の推移>

(単位：%)

	R7年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8年1月	2月
衣 料 品	▲21.3	▲13.1	▲26.6	▲14.6	▲15.4	▲24.1	▲4.8	▲9.0
うち紳士服・洋品	▲29.0	▲22.0	▲23.6	▲19.3	▲19.7	▲31.0	▲10.7	▲12.9
婦人・子供服・洋品	▲18.0	▲9.7	▲27.3	▲12.4	▲12.8	▲20.0	▲2.8	▲7.3
身の回り品	▲19.4	▲21.3	▲0.7	▲19.3	▲20.0	▲20.3	▲5.5	▲1.8
飲食料品	4.3	1.5	4.0	5.9	6.2	3.2	4.3	3.3
家庭用品	▲10.9	▲12.4	▲11.5	▲5.6	▲3.2	▲11.5	2.5	8.8
うち家庭用電気機械器具	▲1.3	7.8	5.6	18.6	23.9	7.4	17.7	34.6

(注)店舗数調整済、全月速報値

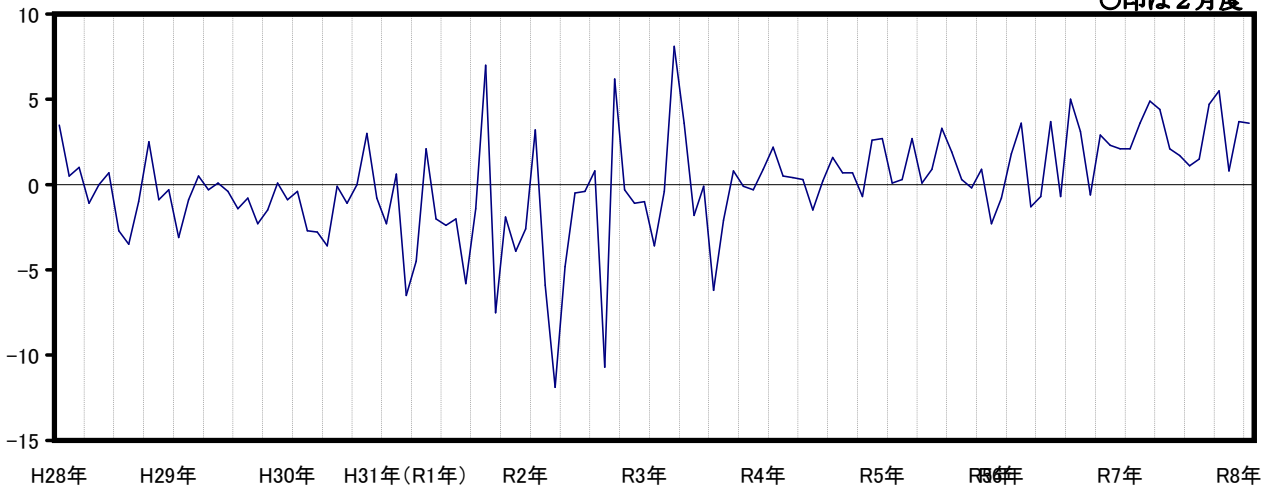
<資料>経済産業省

<過去10年間の推移>

大型小売店販売額前年同月比(%)

<資料>経済産業省

○印は2月度



(2) 専門量販店等販売額

2月 = 73,609百万円

*前年同月比：2.7%増

(県内92家電大型専門店、1,676コンビニエンスストア、626ドラッグストア、112ホームセンター合計)

<概況>

2月の専門量販店等販売額は73,609百万円で、前年同月比2.7%増となり、2か月連続で前年実績を上回った。

業態別にみると、ホームセンター（前年同月比1.6%減）が2か月ぶりに前年実績を下回ったものの、家電大型専門店（同4.0%増）が2か月連続、コンビニエンスストア（同1.8%増）が12か月連続、ドラッグストア（同4.3%増）が6か月連続で前年実績を上回った。

<最近の動き>

	R7年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8年1月	2月
販売額（百万円）	85,310	85,012	78,109	79,002	80,144	89,670	79,645	73,609
前年同月比（%）	▲0.1	0.1	1.3	2.1	3.8	▲0.3	3.7	2.7
うち 家電大型専門店（%）	▲12.6	0.4	▲1.7	9.7	6.8	▲2.6	11.9	4.0
コンビニエンスストア（%）	1.1	2.2	1.8	0.8	2.6	0.5	1.3	1.8
ドラッグストア（%）	3.4	▲0.2	3.0	1.9	5.1	1.2	3.8	4.3
ホームセンター（%）	▲2.0	▲6.3	▲3.8	0.7	0.3	▲6.0	2.3	▲1.6
(参考)全国前年同月比（%）	2.5	2.8	3.3	4.5	5.3	1.5	3.8	3.0

(注1) 販売額、前年同月比は店舗数未調整

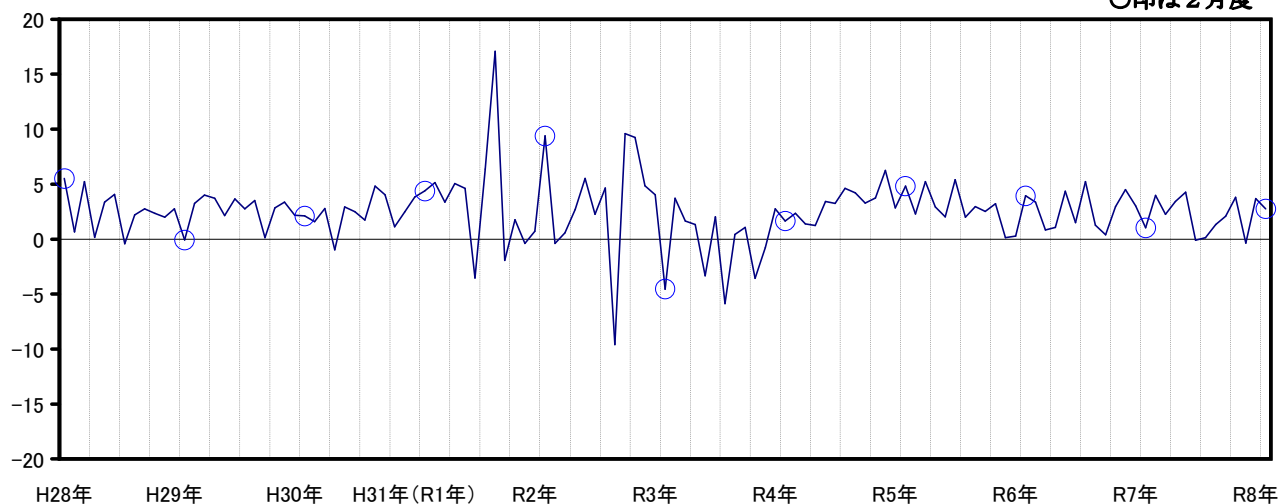
<資料>経済産業省

(注2) 平成28年7月からコンビニエンスストアの販売額を追加

<過去10年間の推移>

専門量販店等販売額前年同月比(%)

<資料>経済産業省
○印は2月度



(3) 自動車(新車)新規登録台数

2 月 = 14,888 台

*前年同月比： 4.4%減

(乗用車、軽自動車合計)

<概況>

2月の自動車(新車)新規登録台数は、14,888台で、2か月連続で前年実績を下回った。
 車種別にみると、軽自動車(前年同月比 3.0%増)が2か月ぶりに前年実績を上回ったもの
 の、乗用車(同 10.5%減)が2か月連続で前年実績を下回った。

<最近の動き>

	R7年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8年1月	2月
登録台数(台)	12,819	10,080	14,837	13,867	12,540	12,005	13,147	14,888
前年同月比(%)	▲3.5	▲8.2	2.3	▲0.5	▲6.8	3.5	▲7.9	▲4.4
(参考)全国前年同月比(%)	▲3.7	▲8.2	▲2.4	▲2.8	▲7.0	▲0.8	▲6.2	▲7.3

<資料>県税務課、日本自動車販売協会連合会

<車種別(新車)新規登録台数前年同月比の推移>

(単位：%)

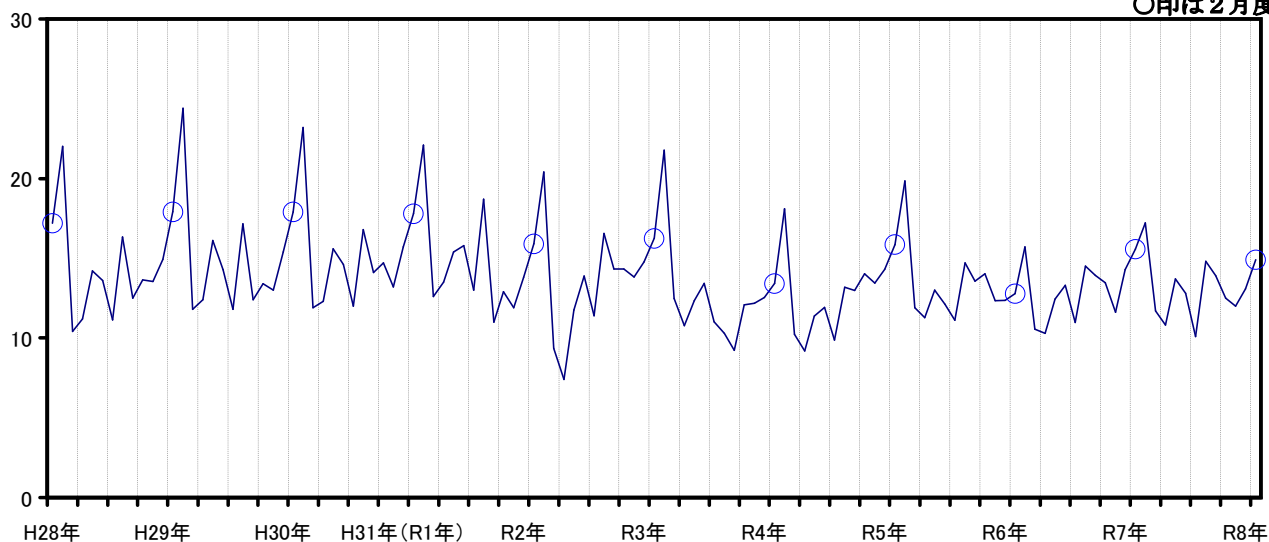
	R7年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8年1月	2月
全乗用車	▲3.5	▲8.2	2.3	▲0.5	▲6.8	3.5	▲7.9	▲4.4
乗用車	▲2.9	▲11.8	2.7	▲2.6	▲5.9	6.0	▲11.7	▲10.5
軽自動車	▲4.4	▲4.0	2.0	2.0	▲7.9	0.7	▲3.3	3.0

<資料>県税務課

<過去10年間の推移>

自動車(新車)新規登録台数(千台)

<資料>県税務課
○印は2月度



(注)全国前年同月比は乗用車+軽乗用車

2 新設住宅着工戸数

2 月 = 1,261 戸

*前年同月比： 8.7%減

<概況>

2月の新設住宅着工戸数は1,261戸で、前年同月比 8.7%減と、2か月連続で前年実績を下回った。

利用関係別にみると、貸家（前年同月比 30.2%増）が2か月ぶりに前年実績を上回ったものの、持家（同 20.2%減）、分譲住宅（同 31.5%減）がいずれも2か月連続で前年実績を下回った。

<最近の動き>

	R7年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8年1月	2月
戸数（戸）	1,662	1,605	1,403	1,766	1,327	1,456	1,316	1,261
前年同月比（%）	1.5	▲ 3.1	3.2	▲ 13.7	▲ 4.9	39.1	▲ 34.0	▲ 8.7
うち持家（%）	▲ 5.7	▲ 10.4	▲ 8.7	▲ 1.5	▲ 9.6	17.1	▲ 20.9	▲ 20.2
貸家（%）	▲ 7.2	9.4	11.5	0.3	27.9	153.5	▲ 45.4	30.2
分譲住宅（%）	61.5	▲ 9.4	37.6	4.3	▲ 23.8	25.5	▲ 28.8	▲ 31.5
(参考)全国前年同月比（%）	▲ 9.7	▲ 9.8	▲ 7.3	3.2	▲ 8.5	▲ 1.3	▲ 0.4	▲ 4.9

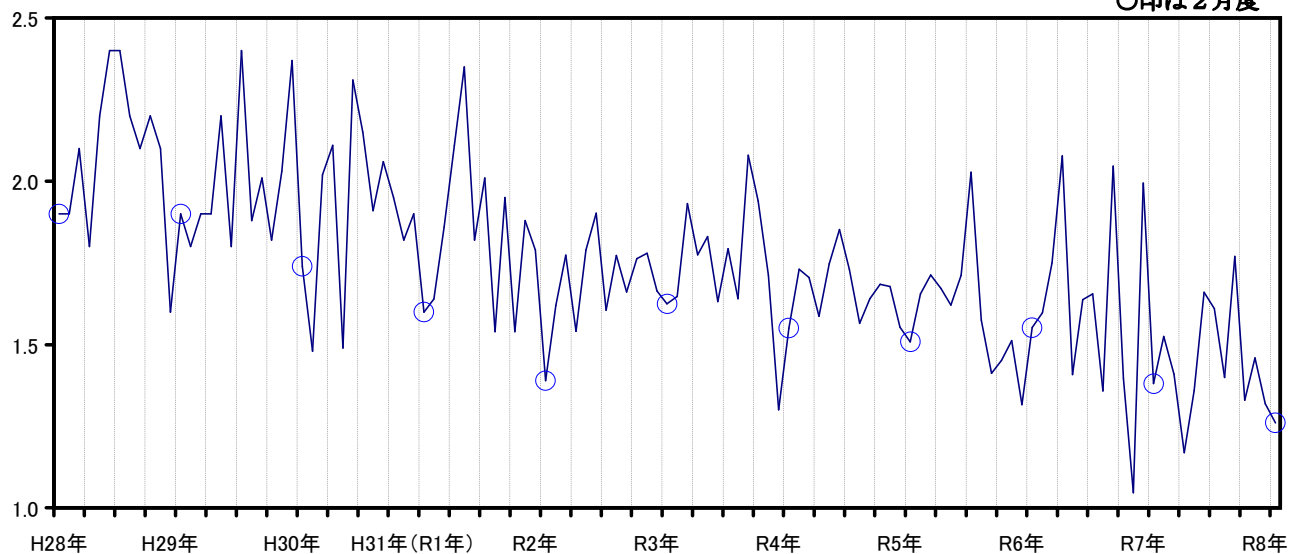
<資料>県住まいづくり課

<過去10年間の推移>

新設住宅着工戸数(千戸)

<資料>県住まいづくり課

○印は2月度



3 公共工事請負金額

2月 = 8,504百万円

*前年同月比： 35.1%減

(建設保証会社保証実績)

<概況>

2月の公共工事の請負金額（工事場所ベース）は8,504百万円で、前年同月比 35.1%減となり、2か月連続で前年実績を下回った。また、取扱い件数（工事場所ベース）は138件で、前年同月比28.1%減となり、5か月連続で前年実績を下回った。

<最近の動き>

	R7年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8年1月	2月
金額（百万円）	37,302	27,483	46,869	19,857	14,761	24,559	10,667	8,504
前年同月比（%）	6.2	▲1.9	44.8	▲9.2	▲18.5	116.0	▲30.2	▲35.1
年度累計前年同月比（%）	14.7	12.4	16.9	14.7	12.5	16.6	14.2	12.2
件数（件）	832	639	1,012	646	465	394	238	138
前年同月比（%）	9.3	▲11.6	11.6	▲8.6	▲8.6	▲4.4	▲8.8	▲28.1
年度累計前年同月比（%）	▲8.0	▲8.8	▲4.5	▲5.1	▲5.4	▲5.4	▲5.5	▲6.2

<発注者別請負金額前年同月比の推移>

(単位：%)

	R7年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8年1月	2月
国	65.9	▲38.5	21.4	69.7	▲49.0	66.2	63.3	▲28.5
独立行政法人等	9.1	4,130.3	1,772.5	10.2	▲91.1	7,807.0	▲98.3	40.9
県	11.6	9.9	18.4	▲22.9	▲14.5	▲15.5	▲1.6	▲61.3
市 町	▲13.7	1.6	15.9	▲14.7	17.0	7.7	▲51.2	▲28.0
地方公社	47.0	-	1,301.4	▲87.0	-	6,848.3	-	-
その他	14.2	▲61.4	48.6	276.8	▲69.7	▲46.0	▲67.9	▲54.6

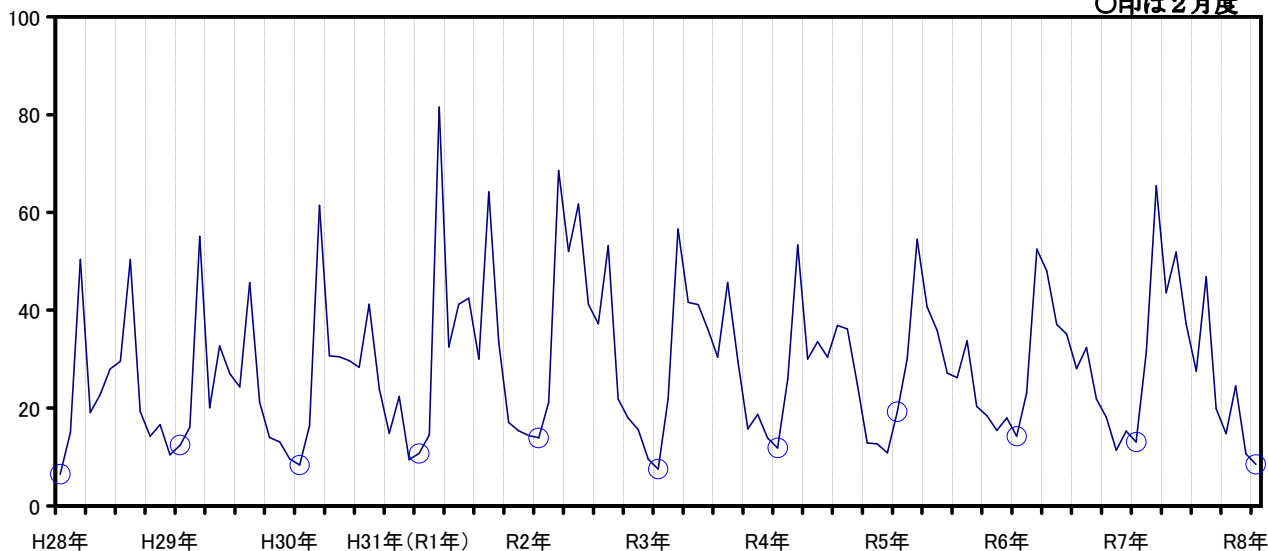
<資料>東日本建設業保証(株)静岡支店

<過去10年間の推移>

公共工事請負金額(十億円)

<資料>東日本建設業保証(株)静岡支店

○印は2月度



4 設備投資

<概況>

令和6年度の設備投資（含む土地投資）、ソフトウェア・研究開発を含む設備投資（除く土地投資）は、製造業、非製造業、全産業においていずれも増加した。

令和7年度の設備投資（含む土地投資）は、製造業（前年度比 39.1%増）、非製造業（同 4.6%増）、全産業（同 24.2%増）においていずれも増加する計画となっている。また、ソフトウェア・研究開発を含む設備投資（除く土地投資）は、製造業（前年度比 17.4%増）、非製造業（同 3.3%増）、全産業（同 14.5%増）においていずれも増加する計画となっている。

2月の着工建築物床面積（非居住用）は49,992㎡で、前年同月比 27.9%減となり、7か月連続で前年実績を下回った。

<企業短期経済観測調査結果>（前年度比%（ ）内は前回調査比修正率）

設備投資（含む土地投資）

		R6年度	R7年度 (計画)
全産業	県	7.2	(1.8) 24.2
	全国	7.5	(0.5) 8.9
製造業	県	11.5	(2.8) 39.1
	全国	7.3	(0.1) 14.0
非製造業	県	2.4	(0.1) 4.6
	全国	7.6	(0.7) 6.0

ソフトウェア・研究開発を含む設備投資（除く土地投資）

		R6年度	R7年度 (計画)
全産業	県	11.7	(0.4) 14.5
	全国	6.9	(0.0) 9.5
製造業	県	15.1	(0.7) 17.4
	全国	6.6	(▲0.4) 9.9
非製造業	県	0.8	(▲0.6) 3.3
	全国	7.1	(0.4) 9.1

（注1）平成29年3月調査分から半期計数の掲載を取り止め、年度計数のみを掲載

（注2）平成29年3月調査分から「ソフトウェア・研究開発を含む設備投資（除く土地投資）」を追加

<資料> 日本銀行静岡支店「静岡県の企業短期経済観測調査結果（令和7年12月調査）」

日本銀行調査統計局「全国企業短期経済観測調査（令和7年12月調査）」

<最近の動き>

	R7年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8年1月	2月
着工建築物床面積（非居住用）（㎡）	89,689	57,307	37,380	67,567	50,576	51,895	68,568	49,992
前年同月比（%）	46.3	▲14.8	▲57.6	▲47.2	▲18.7	▲4.0	▲57.6	▲27.9
（参考）全国前年同月比（%）	▲20.7	▲15.6	▲3.1	▲8.0	▲25.1	▲5.9	3.2	▲11.0

（注3）着工建築物床面積は公共と民間の合計のうち、非居住用

<資料>国土交通省

<参考 県内企業の業況判断D. I. >

		R7年9月	R7年12月	R8年3月 (予測)
全産業	全産業	5	8	2
	製造業	▲8	▲6	▲8
	非製造業	18	20	10
（参考）全国・全産業		15	17	11

（注4）業況判断D. I. : 「良い」-「悪い」回答社数構成比%ポイント

<資料> 日本銀行静岡支店「静岡県の企業短期経済観測調査結果（令和7年12月調査）」

5 輸出

2月 = 235,219百万円

*前年同月比： 7.0%増

(清水税関支署管内通関実績)

<概況>

2月の清水税関支署管内の輸出総額は235,219百万円で、前年同月比 7.0%増となり、5か月連続で前年実績を上回った。
 主要な品目別にみると、原動機（前年同月比 19.8%減）が5か月連続、エアコン（同34.6%減）、科学光学機器（同 37.8%減）がいずれも4か月連続で前年実績を下回ったものの、自動車（同 15.5%増）が2か月連続、自動車の部分品（同 26.8%増）が7か月連続、二輪自動車類（同 11.0%増）が5か月連続で前年実績を上回った。
 地域別にみると、米国向け（同 13.0%減）が2か月ぶりに前年実績を下回ったものの、アジア向け（同 5.7%増）が3か月連続、EU向け（同 13.5%増）が7か月連続で前年実績を上回った。

<最近の動き>

	R7年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8年1月	2月
輸出総額(百万円)	227,255	198,300	213,510	230,911	263,762	256,426	204,677	235,219
前年同月比(%)	▲7.4	▲4.2	▲1.7	8.7	28.2	5.9	24.8	7.0
(参考)全国前年同月比(%)	▲2.6	▲0.1	4.2	3.6	6.1	5.1	16.8	4.2

<資料>清水税関支署

<主要品目別前年同月比の推移>

(単位:%)

	R7年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8年1月	2月
原動機	6.5	15.6	2.7	▲13.0	▲14.9	▲4.3	▲19.5	▲19.8
エアコン	▲26.3	▲9.3	7.3	20.3	▲11.8	▲40.8	▲6.0	▲34.6
自動車	▲4.7	▲15.1	▲8.4	15.3	▲17.9	▲7.5	65.7	15.5
自動車の部分品	▲6.0	1.3	13.2	31.2	48.0	47.8	41.6	26.8
二輪自動車類	▲12.9	31.1	▲8.2	24.2	13.5	9.3	99.9	11.0
科学光学機器	▲42.5	▲25.2	▲13.7	11.4	▲21.5	▲9.9	▲15.6	▲37.8

<資料>清水税関支署

<地域別前年同月比の推移>

(単位:%)

	R7年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8年1月	2月
アジア	▲5.6	▲11.4	▲3.1	9.7	▲3.7	19.6	20.8	5.7
米国	▲11.5	5.9	▲12.3	▲6.3	100.4	▲9.5	17.6	▲13.0
EU	▲17.7	8.2	4.0	38.2	26.9	1.3	53.2	13.5

<資料>清水税関支署

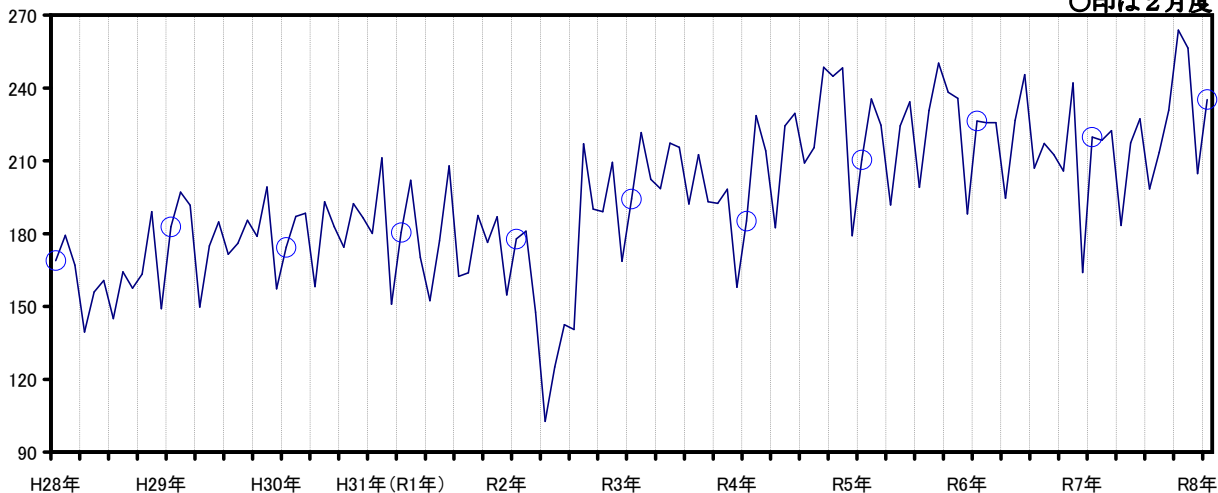
(注) 管内とは、清水港(焼津、沼津、浜松、興津の各出張所及び下田監視所含む)、田子の浦港、御前崎港、静岡空港の4つをいう。
 なお、数値は、通関手続きが行われた金額である。輸入も同様。

<過去10年間の推移>

清水税関支署管内通関実績輸出額(十億円)

<資料>清水税関支署

○印は2月度



6 輸入

2月 = 125,069百万円

*前年同月比： 24.0%増

(清水税関支署管内通関実績)

<概況>

2月の清水税関支署管内の輸入総額は125,069百万円で、前年同月比 24.0%増となり、2か月ぶりに前年実績を上回った。

主要な品目別にみると、パルプ（前年同月比 33.1%減）が6か月連続で前年実績を下回ったものの、紙類及び同製品（同 23.7%増）が7か月ぶり、原動機（同 29.3%増）、自動車の部分品（同 46.8%増）がいずれも2か月ぶり、魚介類及び同調製品（同 79.2%増）、木材（同 24.6%増）がいずれも3か月連続で前年実績を上回った。

地域別では、アジアから（同 43.9%増）が2か月ぶり、EUから（同 49.9%増）が2か月連続で前年実績を上回ったものの、米国から（同 9.5%減）が3か月連続で前年実績を下回った。

<最近の動き>

	R7年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8年1月	2月
輸入総額（百万円）	131,895	105,943	123,981	122,461	112,571	127,008	137,546	125,069
前年同月比（%）	5.4	▲5.5	6.9	8.0	7.3	5.4	▲1.7	24.0

<主要品目別前年同月比の推移>

(単位:%)

	R7年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8年1月	2月
魚介類及び同調製品	▲2.0	9.4	38.5	10.7	▲3.1	21.8	5.1	79.2
木 材	▲0.2	2.7	▲6.6	17.4	▲12.7	21.9	78.2	24.6
パ ル プ	▲15.8	4.2	▲9.7	▲8.3	▲21.2	▲25.4	▲4.3	▲33.1
紙 類 及 び 同 製 品	1.2	▲14.7	▲14.2	▲2.6	▲28.3	▲17.6	▲7.5	23.7
原 動 機	▲60.9	22.6	▲22.6	▲30.3	20.8	12.1	▲11.9	29.3
自 動 車 の 部 分 品	▲3.0	32.3	5.7	36.9	9.7	21.8	▲1.5	46.8

<資料>清水税関支署

<地域別前年同月比の推移>

(単位:%)

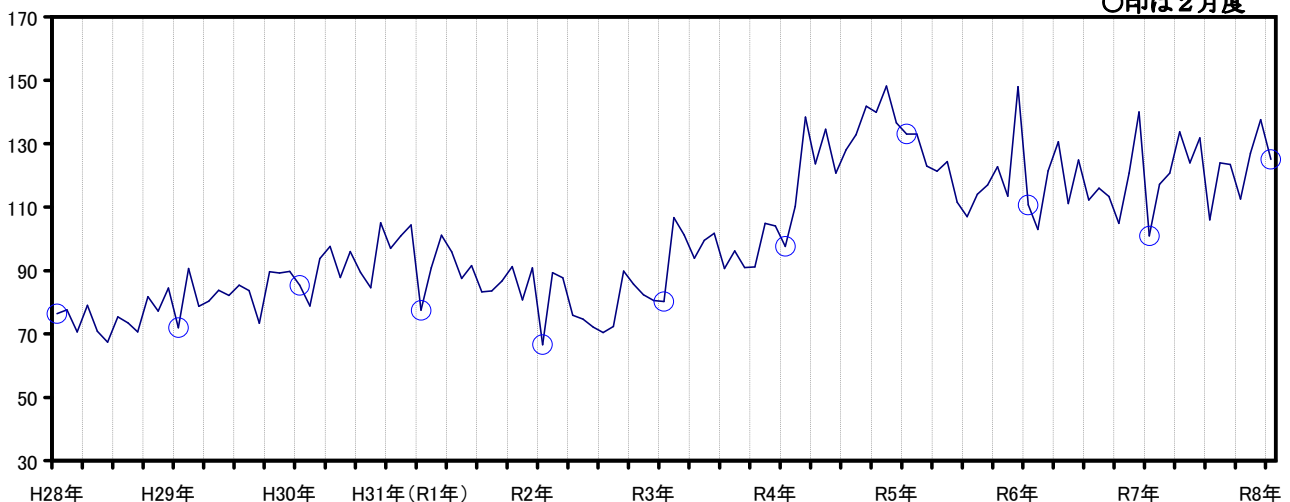
	R7年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8年1月	2月
ア ジ ア	14.1	▲3.6	4.1	16.7	20.7	23.3	▲7.0	43.9
米 国	2.7	▲30.8	▲8.8	12.9	20.6	▲9.9	▲33.7	▲9.5
E U	10.1	▲14.4	▲18.4	18.1	▲18.5	▲9.3	3.5	49.9

<資料>清水税関支署

<過去10年間の推移>

清水税関支署管内通関実績輸入額(十億円)

<資料>清水税関支署
○印は2月度



生 産 面

1 生 産

(1) 鉱工業生産指数

2 月 = 99.5

(令和2年=100、鉱工業総合、季節調整済指数)

*前月比(季節調整済指数) : 1.2%減

*前年同月比(原指数) : 1.6%増

<概況>

2月の鉱工業生産指数(総合)は99.5(季節調整済指数)で、前月比は1.2%減と、2か月ぶりに減少した。また、前年同月比(原指数)は1.6%増と、2か月ぶりに前年水準を上回った。業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(前年同月比11.9%増)が3か月ぶり、化学(同5.4%増)が4か月ぶり、輸送機械(同2.2%増)が3か月連続で上回ったものの、食料品・たばこ(同0.6%減)3か月ぶり、電気機械(同2.6%減)が4か月連続、パルプ・紙・紙加工品(同2.0%減)が2か月連続で前年水準を下回った。

<最近の動き>

	R7年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8年1月	2月
指 数	93.7	95.3	94.9	97.1	95.1	91.6	100.7	99.5
前 月 比 (%)	▲ 2.7	1.7	▲ 0.4	2.3	▲ 2.1	▲ 3.7	9.9	▲ 1.2
前 年 同 月 比 (%)	▲ 4.1	▲ 3.0	1.8	2.0	▲ 4.3	0.9	▲ 0.6	1.6
(参考)全国前年同月比(%)	▲ 0.4	▲ 1.6	3.8	1.6	▲ 2.2	2.6	0.7	0.4

(注)令和2年=100、鉱工業総合、指数:季節調整済、前年同月比:原指数

<資料>県統計活用課、経済産業省

<県内業種別鉱工業生産指数前年同月比の推移>

(単位:%)

	R7年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8年1月	2月
はん用・生産用・業務用機械工業	▲ 6.6	▲ 3.6	▲ 11.2	▲ 15.9	4.9	▲ 6.8	▲ 3.3	11.9
電 気 機 械 工 業	9.9	5.7	4.4	10.7	▲ 9.3	▲ 0.6	▲ 5.6	▲ 2.6
輸 送 機 械 工 業	▲ 4.1	▲ 1.9	6.4	4.0	▲ 1.8	6.0	7.3	2.2
化 学 工 業	▲ 14.4	▲ 4.7	1.8	1.9	▲ 8.7	▲ 2.2	▲ 8.2	5.4
パルプ・紙・紙加工品工業	▲ 3.8	▲ 8.7	2.7	▲ 0.6	▲ 2.9	3.9	▲ 5.3	▲ 2.0
食料品・たばこ工業	▲ 4.9	▲ 4.4	▲ 2.4	1.2	▲ 3.2	8.4	3.2	▲ 0.6

(注)令和2年=100、鉱工業総合、前年同月比:原指数

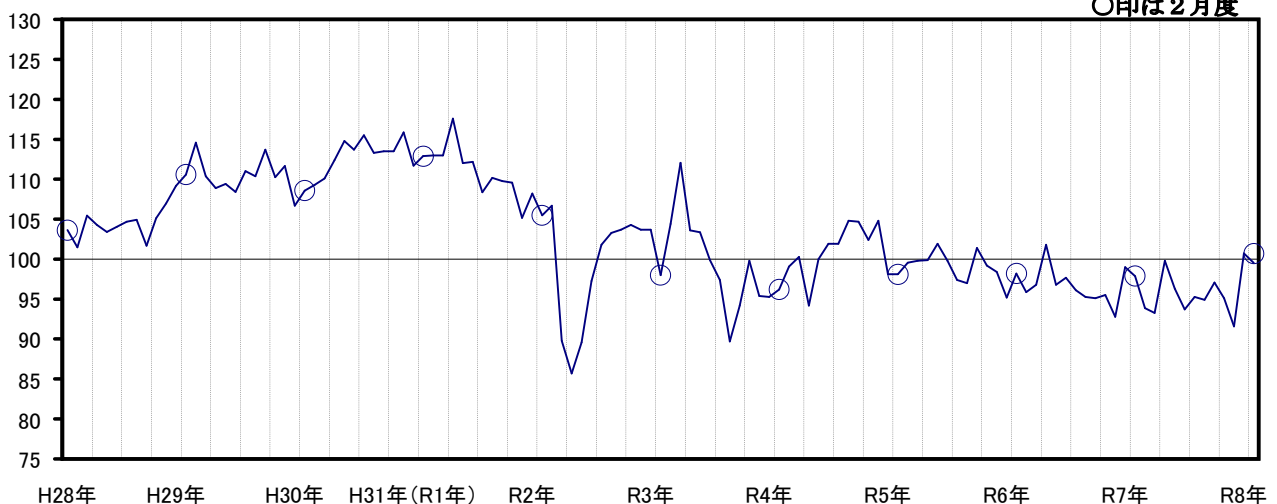
<資料>県統計活用課

<過去10年間の推移>

鉱工業生産指数(総合、令和2年=100)

<資料>県統計活用課

○印は2月度



(2) 鋳工業在庫指数

2月 = 106.3

(令和2年=100、鋳工業総合、季節調整済指数)

*前月比(季節調整済指数) : 2.1%増

*前年同月比(原指数) : 3.0%増

<概況>

2月の鋳工業在庫指数(総合)は106.3(季節調整済指数)で、前月比は2.1%増と、2か月連続で増加した。また、前年同月比(原指数)は3.0%増と、6か月連続で前年水準を上回った。

なお、在庫動向を在庫循環図でみると、今期は「在庫調整局面(景気後退期)」に該当する。

業種別にみると、化学(前年同月比0.9%減)が2か月ぶり、電気機械(同8.0%減)が2か月連続で前年水準を下回ったものの、食料品・たばこ(同0.2%増)が9か月ぶり、はん用・生産用・業務用機械(同15.0%増)が4か月連続、輸送機械(同9.4%増)が3か月連続、パルプ・紙・紙加工品(同6.3%増)が21か月連続で前年水準を上回った。

<最近の動き>

	R7年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8年1月	2月
指数	102.1	102.0	105.9	104.5	105.8	102.5	104.1	106.3
前月比(%)	▲2.6	▲0.1	3.8	▲1.3	1.2	▲3.1	1.6	2.1
前年同月比(%)	▲2.6	▲5.0	2.6	0.2	1.5	3.8	2.8	3.0
(参考)全国前年同月比(%)	▲2.4	▲2.9	▲2.4	▲1.9	▲4.1	▲2.8	▲4.3	▲3.4

(注)令和2年=100、鋳工業総合、指数:季節調整済、前年同月比:原指数

<資料>県統計活用課、経済産業省

<県内業種別鋳工業在庫指数前年同月比の推移>

(単位:%)

	R7年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8年1月	2月
はん用・生産用・業務用機械工業	▲5.3	▲4.7	0.1	▲0.4	5.2	6.3	12.3	15.0
電気機械工業	2.1	5.2	▲0.9	1.1	▲1.3	0.5	▲5.7	▲8.0
輸送機械工業	▲13.7	▲34.7	3.6	▲4.7	▲3.6	18.5	10.0	9.4
化学工業	6.3	6.3	12.3	11.5	7.2	5.9	2.7	▲0.9
パルプ・紙・紙加工品工業	4.6	4.7	2.9	0.3	3.7	6.9	4.4	6.3
食料品・たばこ工業	▲11.3	▲0.6	▲4.5	▲8.8	▲4.3	▲8.3	▲4.1	0.2

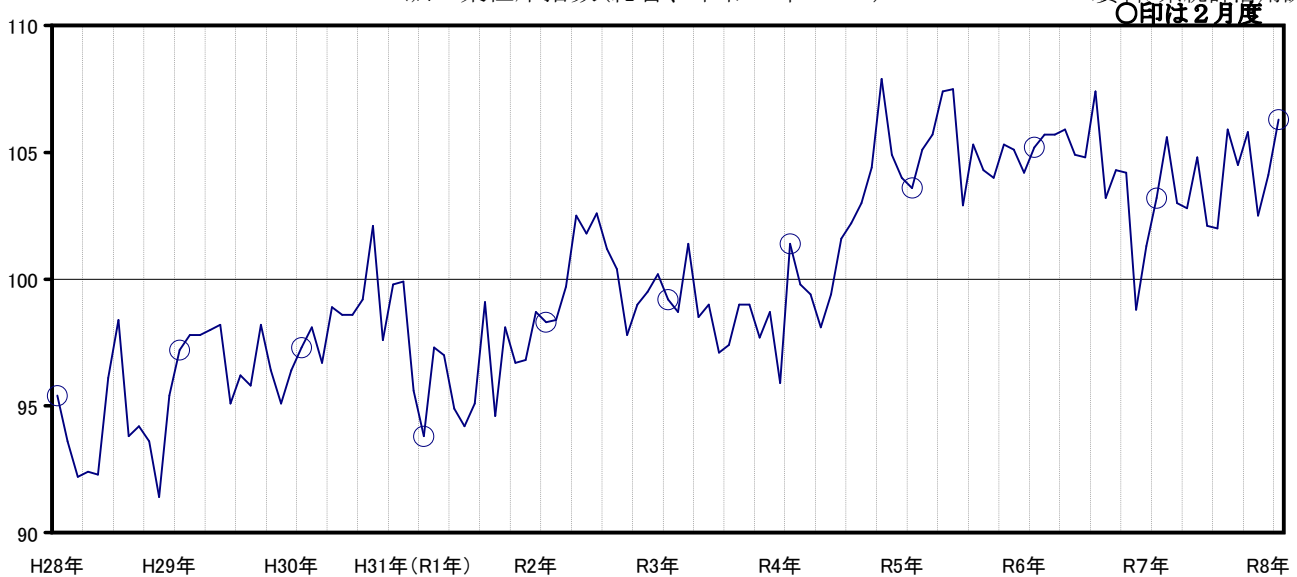
(注)令和2年=100、鋳工業総合、前年同月比:原指数

<資料>県統計活用課

<過去10年間の推移>

鋳工業在庫指数(総合、令和2年=100)

<資料>県統計活用課



雇 用 面

1 雇 用

(1) 有効求人倍率

2 月 = 1.06倍

*前月比（季節調整値）： 0.00ポイント増

（季節調整値、学卒を除き、パートタイムを含む）

<概 況>

2月の有効求人倍率（受理地別、季節調整値、学卒を除き、パートタイムを含む）は1.06倍となり、前月と同水準であった。61か月連続で1倍台となった。また、全国値を0.13ポイント下回った。新規求人（学卒、パートタイムを除く）（前年同月比 9.7%減）は2か月連続で前年実績を下回った。

産業別にみると、情報通信業（同 27.1%増）が3か月ぶりに前年実績を上回ったものの、製造業（前年同月比 12.8%減）が3か月ぶり、卸売業・小売業（同 29.7%減）、医療・福祉（同 5.2%減）がいずれも2か月連続、建設業（同 10.3%減）が8か月連続、運輸業・郵便業（同 9.2%減）が7か月連続、サービス業（他に分類されないもの）（同 2.6%減）が3か月連続で前年実績を下回った。

<最近の動き>

（単位：倍）

	R 7年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R 8年1月	2月
県（受理地別）	1.06	1.06	1.06	1.07	1.07	1.09	1.06	1.06
（参考）県（就業地別）	1.20	1.19	1.19	1.19	1.19	1.20	1.19	1.19
全 国	1.22	1.21	1.20	1.19	1.19	1.20	1.18	1.19

（注）季節調整値、学卒を除き、パートタイムを含む

<産業別新規求人前年同月比の推移>

（単位：%）

	R 7年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R 8年1月	2月
建 設 業	▲ 4.1	▲ 1.1	▲ 0.1	▲ 8.5	▲ 2.4	▲ 14.7	▲ 6.5	▲ 10.3
製 造 業	▲ 16.2	▲ 1.3	3.4	▲ 18.4	▲ 14.5	5.4	0.8	▲ 12.8
情 報 通 信 業	▲ 15.7	▲ 17.8	18.5	▲ 24.2	3.9	▲ 3.3	▲ 22.2	27.1
運 輸 業 ・ 郵 便 業	3.3	▲ 16.8	▲ 1.3	▲ 13.5	▲ 15.7	▲ 17.6	▲ 7.8	▲ 9.2
卸 売 業 ・ 小 売 業	18.9	▲ 41.8	▲ 6.9	10.2	▲ 24.5	118.9	▲ 5.2	▲ 29.7
医 療 ・ 福 祉	▲ 0.7	▲ 4.0	0.0	3.5	▲ 11.1	1.6	▲ 0.2	▲ 5.2
サービス業（他に分類されないもの）	▲ 12.1	11.9	3.4	▲ 1.4	4.1	▲ 0.8	▲ 7.7	▲ 2.6
合 計	▲ 3.3	▲ 10.1	▲ 0.7	▲ 0.5	▲ 9.6	3.8	▲ 4.1	▲ 10.3

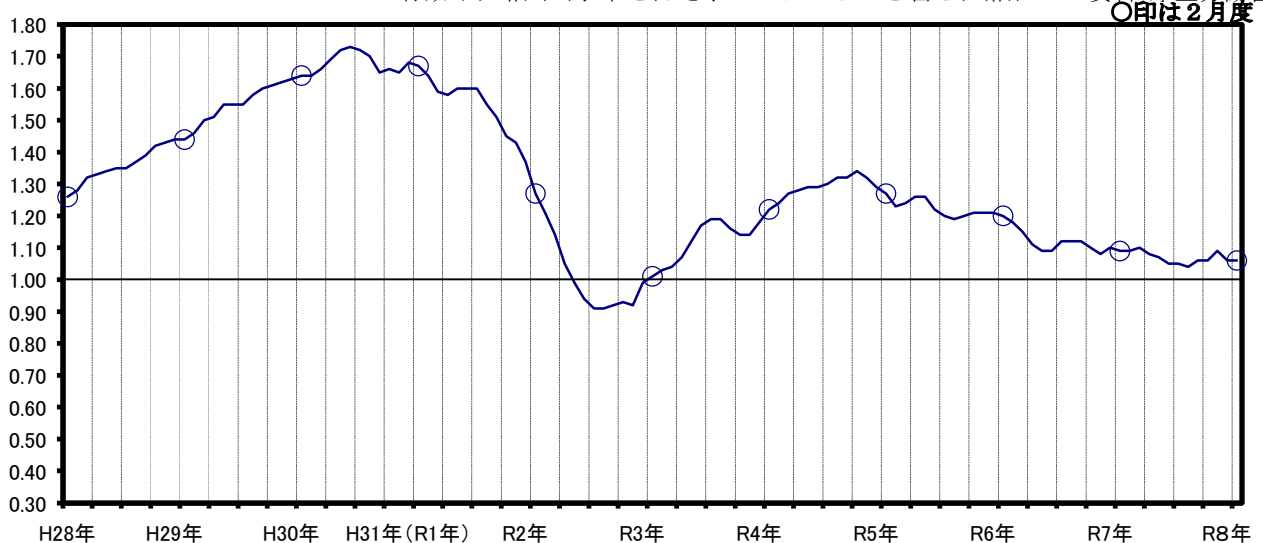
（注）学卒、パートタイムを除く

<資料>厚生労働省

<過去10年間の推移>

有効求人倍率（学卒を除き、パートタイムを含む）（倍）

<資料>厚生労働省



(2) 雇用保険受給者実人員

2月 = 11,991人

*前月比: 6.6%減

*前年同月比: 4.1%増

<概況>

2月の雇用保険受給者実人員は11,991人で、前月比は6.6%減と、2か月連続で前月を下回った。また、前年同月比は4.1%増と9か月連続で前年実績を上回った。
 完全失業率(全国)は2.6%と前月から0.1ポイント減少した。
 静岡県(令和7年10~12月)の完全失業率は2.2%で、前期(令和7年7~9月)と同水準であった。

<最近の動き>

	R7年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8年1月	2月
実人員(人)	15,013	14,817	14,982	14,620	13,482	13,497	12,833	11,991
前月比(%)	15.6	▲1.3	1.1	▲2.4	▲7.8	0.1	▲4.9	▲6.6
前年同月比(%)	8.3	9.0	13.6	11.2	9.6	9.9	6.7	4.1
(参考)全国前年同月比(%)	7.2	8.5	13.9	11.8	9.3	11.4	6.5	5.8

<資料>厚生労働省

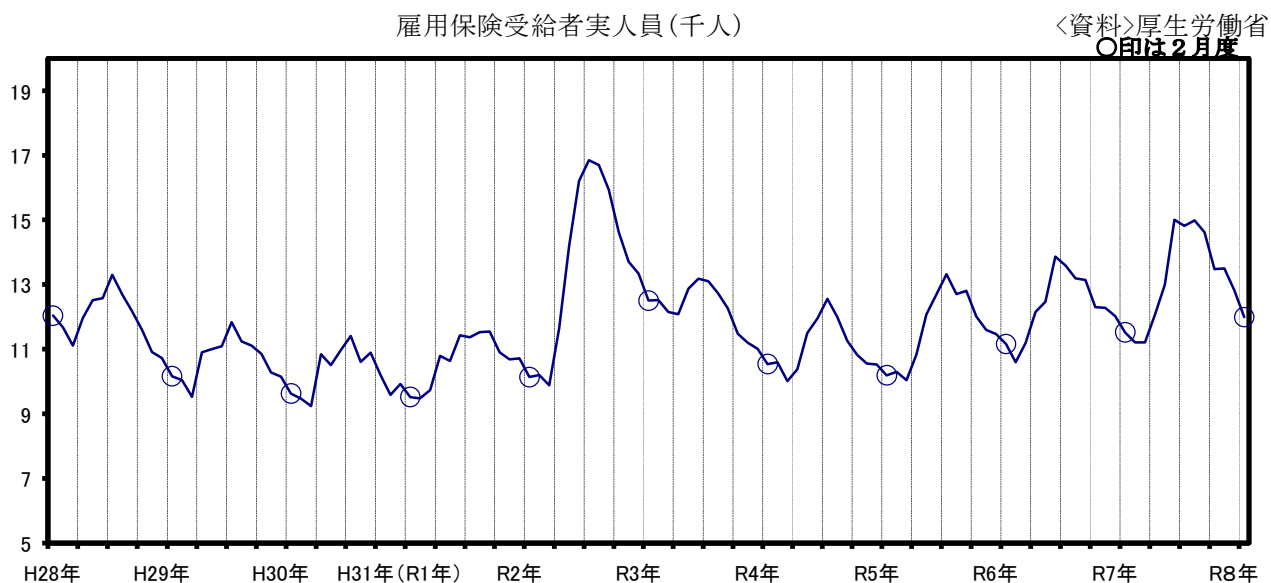
<参考 完全失業率(全国)の推移>

	R7年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8年1月	2月
完全失業率(全国)(%)	2.3	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	2.7	2.6

(注)季節調整値

<資料>総務省統計局

<過去10年間の推移>



(3) 所定外労働時間指数

1 月 = 115.1

*前月比(季節調整済指数): 5.4%減

(令和2年=100、事業所規模30人以上、調査産業計、季節調整済) *前年同月比(原指数) : 0.0%

<概況>

1月の所定外労働時間指数(事業所規模30人以上、調査産業計)は115.1(季節調整済指数)で、3か月連続で前月を下回った。また、前年同月比(原指数)は同水準だった。
 業種別にみると、卸売業・小売業(前年同月比16.7%減)が4か月ぶり、建設業(同38.8%減)が14か月連続、製造業(同6.9%減)が17か月連続で前年実績を下回ったものの、医療・福祉(同33.8%増)、その他のサービス業(同1.4%増)が4か月ぶり、情報通信業(同35.2%増)が6か月連続、運輸業・郵便業(同11.7%増)が12か月連続で前年実績を上回った。

<最近の動き>

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8年1月
指数	124.3	124.6	114.7	123.6	124.9	123.9	121.7	115.1
前月比(%)	0.2	0.2	▲7.9	7.8	1.1	▲0.8	▲1.8	▲5.4
前年同月比(%)	▲0.7	0.0	▲6.8	▲0.8	4.7	▲4.3	0.0	0.0
(参考)全国前年同月比(%)	▲2.6	▲1.7	▲1.9	▲0.8	▲0.9	▲2.4	▲0.8	1.8

*令和2年=100、事業所規模30人以上、調査産業計、指数:季節調整済指数、前年同月比:原指数

<資料>県統計活用課

<県内業種別所定外労働時間指数前年同月比の推移>

(単位:%)

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8年1月
建設業	▲20.9	▲17.7	▲23.2	▲42.6	▲17.9	▲29.4	▲25.3	▲38.8
製造業	▲9.1	▲7.5	▲12.0	▲8.1	▲7.9	▲1.9	▲9.2	▲6.9
情報通信業	38.0	▲10.1	15.2	32.7	11.6	58.0	49.2	35.2
運輸業・郵便業	11.5	42.9	18.4	2.6	12.5	12.0	30.5	11.7
卸売業・小売業	▲15.1	▲21.8	▲15.4	▲3.1	5.8	10.9	17.2	▲16.7
医療・福祉	22.4	0.0	▲12.7	27.4	▲11.7	▲8.4	▲9.8	33.8
その他のサービス業	▲6.1	0.0	▲7.1	2.1	▲3.8	▲17.4	▲6.6	1.4
調査産業計	▲0.7	0.0	▲6.8	▲0.8	4.7	▲4.3	0.0	0.0

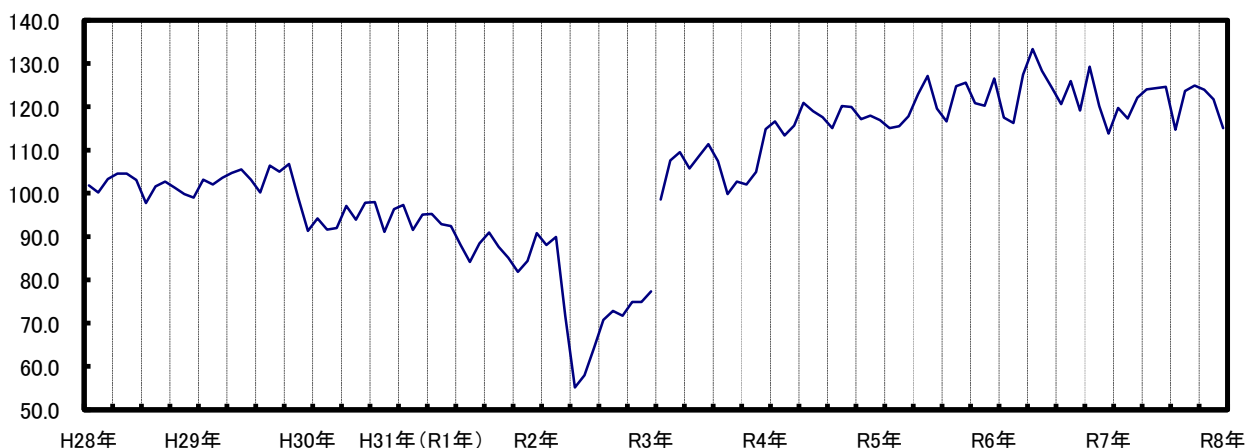
*令和2年=100、事業所規模30人以上、前年同月比:原指数

<資料>県統計活用課

<過去10年間の推移>

所定外労働時間指数(事業所規模30人以上、令和2年=100)

<資料>県統計調査課



そ の 他

1 物 価

国内企業物価指数

(令和2年=100)

3 月 = 129.5

*前 月 比: 0.8%上昇

*前年同月比: 2.6%上昇

<概 況>

3月の国内企業物価指数は129.5となり、前月比は0.8%の上昇となった。また、前年同月比は2.6%の上昇となった。

	R 7年8月	9月	10月	11月	12月	R 8年1月	2月	3月
国内企業物価指数	126.4	127.0	127.6	128.0	128.1	128.4	128.3	129.5
前 月 比 (%)	▲ 0.2	0.5	0.5	0.3	0.1	0.2	0.1	0.8
前年同月比 (%)	2.6	2.8	2.7	2.7	2.4	2.3	2.1	2.6

<資料>日本銀行

2 金 融

(1) 県内金融機関貸出残高

(銀行、信用金庫)

2 月 = 147,051億円

*前 月 比: 0.1%減

*前年同月比: 2.4%増

<概 況>

2月末の県内の銀行と信用金庫の貸出残高は147,051億円で、前月比とは0.1%の減少となった。また、前年同月比は2.4%の増加となった。

	R 7年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R 8年1月	2月
貸出残高(億円)	145,267	145,524	145,547	145,328	145,910	146,916	147,146	147,051
前 月 比 (%)	0.0	0.2	0.0	▲ 0.2	0.4	0.7	0.2	▲ 0.1
前年同月比 (%)	1.9	1.8	1.5	1.9	1.7	1.9	2.4	2.4

<資料>日本銀行静岡支店

(2) 貸出約定金利

(県内地銀4行総平均)

2 月 = 1.627%

*前 月 差: 0.042ポイント増

*前年同月差: 0.229ポイント増

<概 況>

2月の県内地銀4行総平均の貸出約定金利(総合)は1.627%で、前月から0.042ポイントのプラスとなった。なお、前年同月差は0.229ポイントのプラスとなった。

	R 7年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R 8年1月	2月
貸出約定金利 (%)	1.542	1.540	1.543	1.543	1.541	1.567	1.585	1.627
前月差(ポイント)	0.008	▲ 0.002	0.003	0.000	▲ 0.002	0.026	0.018	0.042
前年同月差(ポイント)	0.274	0.261	0.240	0.222	0.217	0.200	0.201	0.229

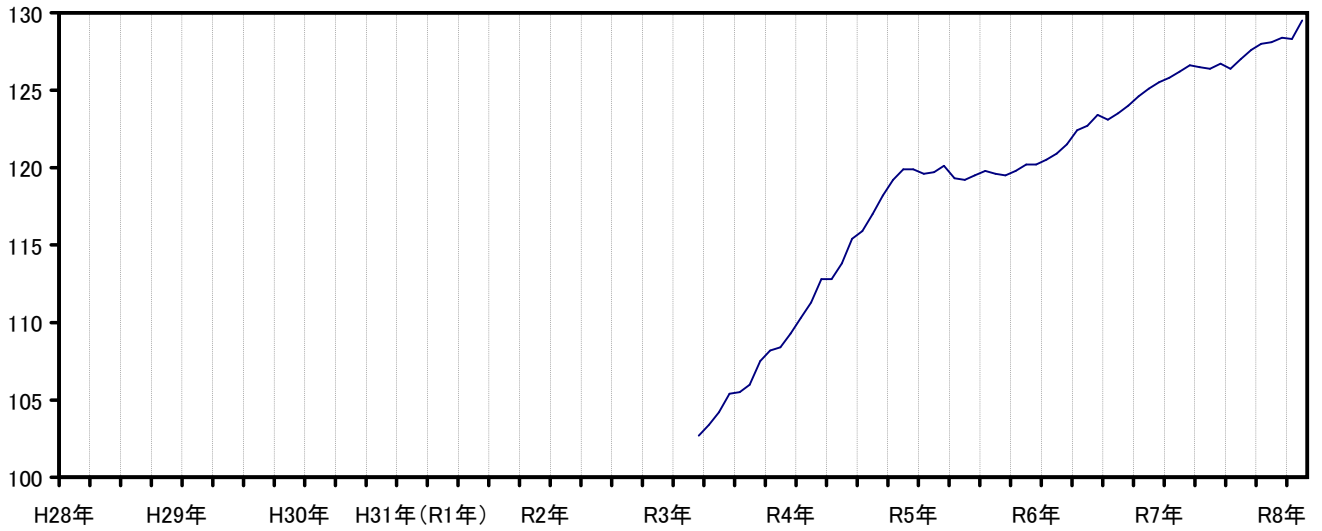
(注) 貸出約定金利は、金融庁報告ベースに過去に遡及して変更

<資料>日本銀行静岡支店

<過去10年間の推移>

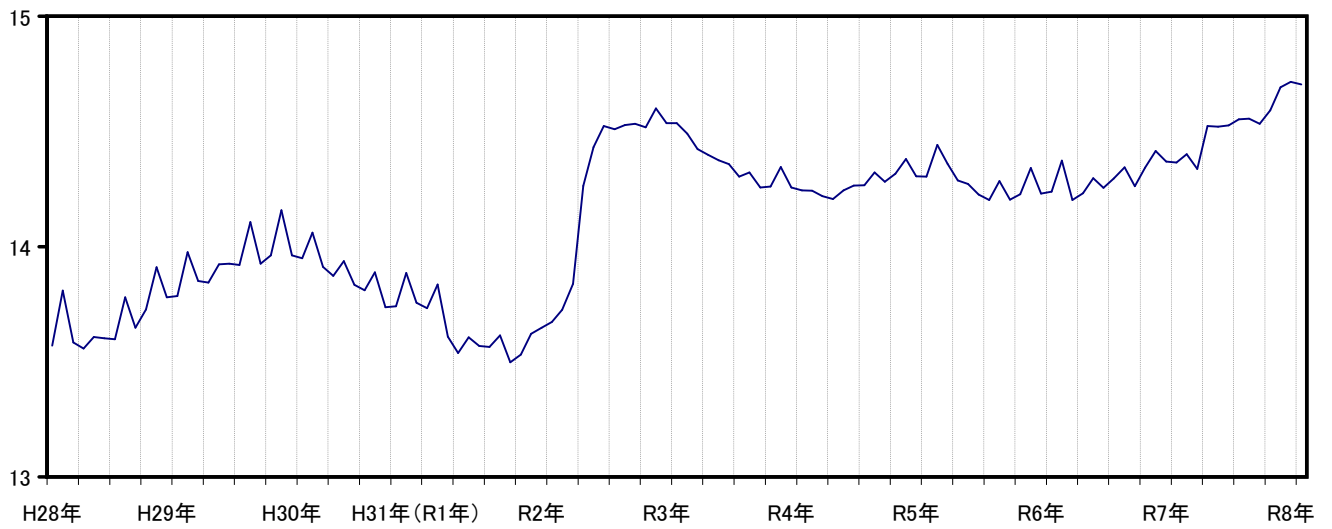
国内企業物価指数(令和2年=100)

<資料>日本銀行



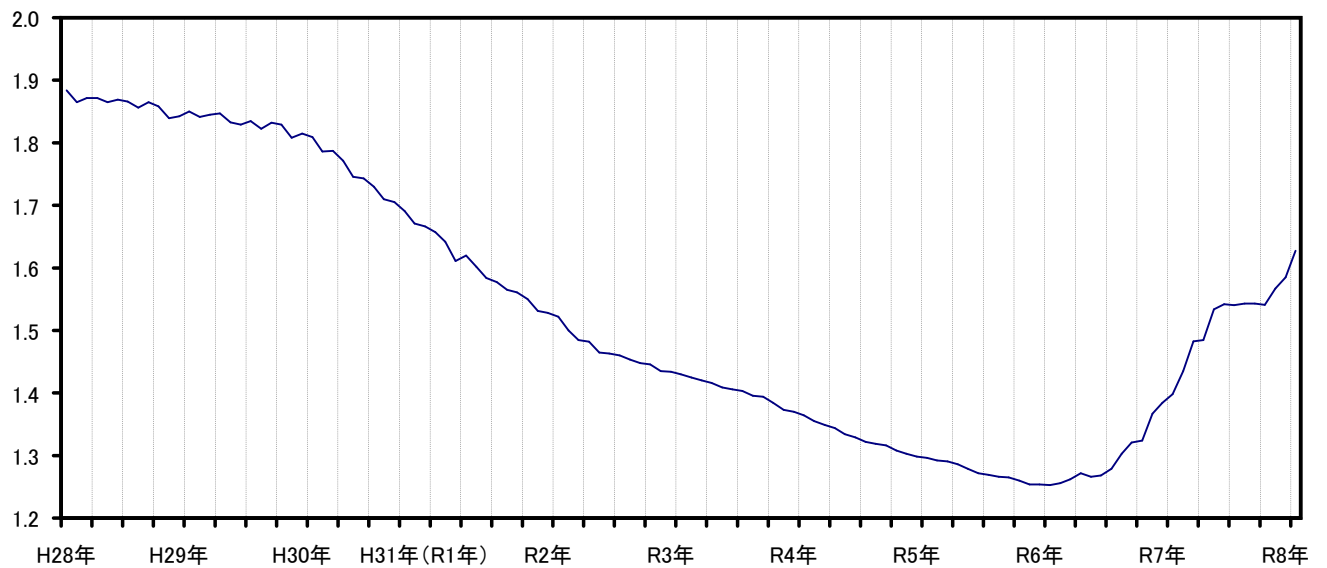
県内金融機関貸出残高(兆円)

<資料>日本銀行静岡支店



県内地銀平均貸出約定金利(%)

<資料>日本銀行静岡支店



(3) 信用保証協会保証金額**2月 = 17,393百万円**

*前年同月比： 36.9%増

<概況>

2月の保証承諾は、金額は17,393百万円（前年同月比 36.9%増）と前年を上回り、件数は1,504件（同 18.4%増）と前年実績を上回った。

	R 7年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R 8年1月	2月
保証金額（百万円）	22,299	19,851	25,391	16,213	16,907	20,988	14,036	17,393
前年同月比（%）	▲ 2.8	41.4	79.5	27.6	15.9	21.9	19.0	36.9
保証件数（件）	1,753	1,584	1,984	1,536	1,411	1,809	1,317	1,504
前年同月比（%）	▲ 2.8	14.2	34.0	18.5	2.8	25.3	10.7	18.4

<資料>県信用保証協会

(4) 円相場**3月 = 158.64円/ドル**

*前月差： 3.57円安

(東京・銀行間直物中心・平均)

*前年同月差： 9.46円安

<概況>

3月の東京外国為替市場での対ドル平均円相場（銀行間直物）は158.64円で、前月と比べて3.57円の円安となり、2か月ぶりに円安となった。

<最近の動き>

▲…円高

	R 7年8月	9月	10月	11月	12月	R 8年1月	2月	3月
平均相場（円）	147.67	147.94	151.28	155.12	155.88	156.71	155.07	158.64
前月差（円）	0.96	0.27	3.34	3.84	0.76	0.83	▲ 1.64	3.57
前年同月差（円）	1.44	4.56	1.65	1.40	2.16	0.22	3.11	9.46

(注)東京外国為替相場・銀行間直物中心相場・平均

3 企業経営**企業倒産件数****2月 = 17件**

*前年同月比： 5.6%減

<概況>

2月の負債総額 1,000万円以上の企業倒産は、件数は17件（前年同月比 5.6%減）と前年実績を下回り、負債総額は 1,895百万円（同 22.7%増）と前年実績を上回った。

原因別にみると、販売不振を原因とするいわゆる「不況型倒産」が16件と全体の94.1%を占め、34か月連続で50%以上となっている。

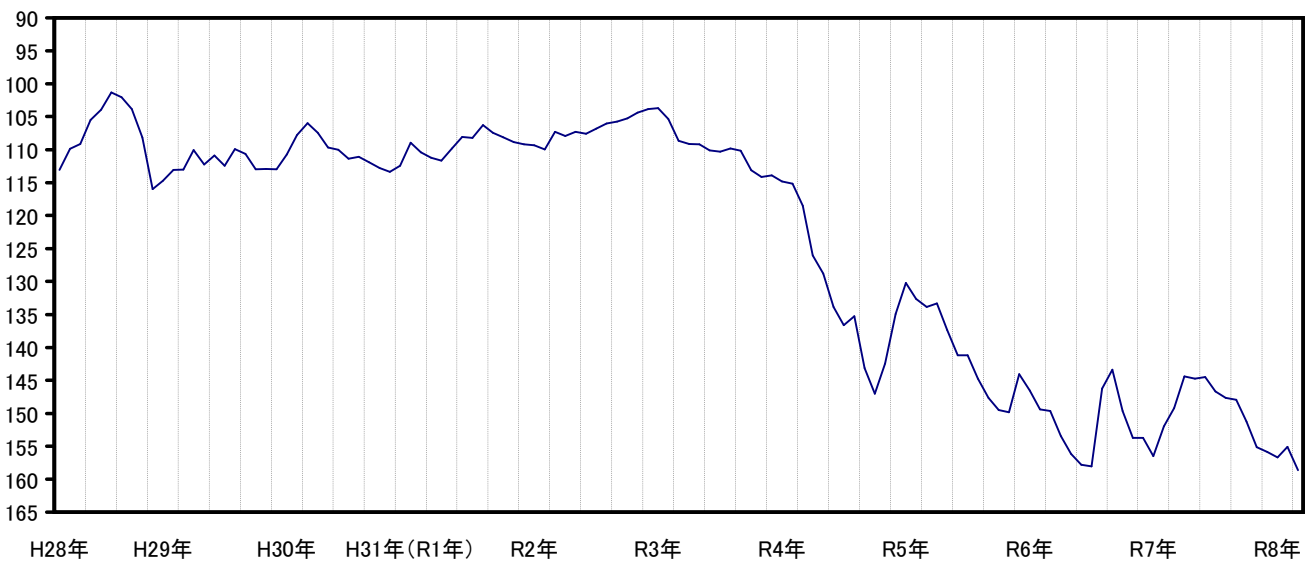
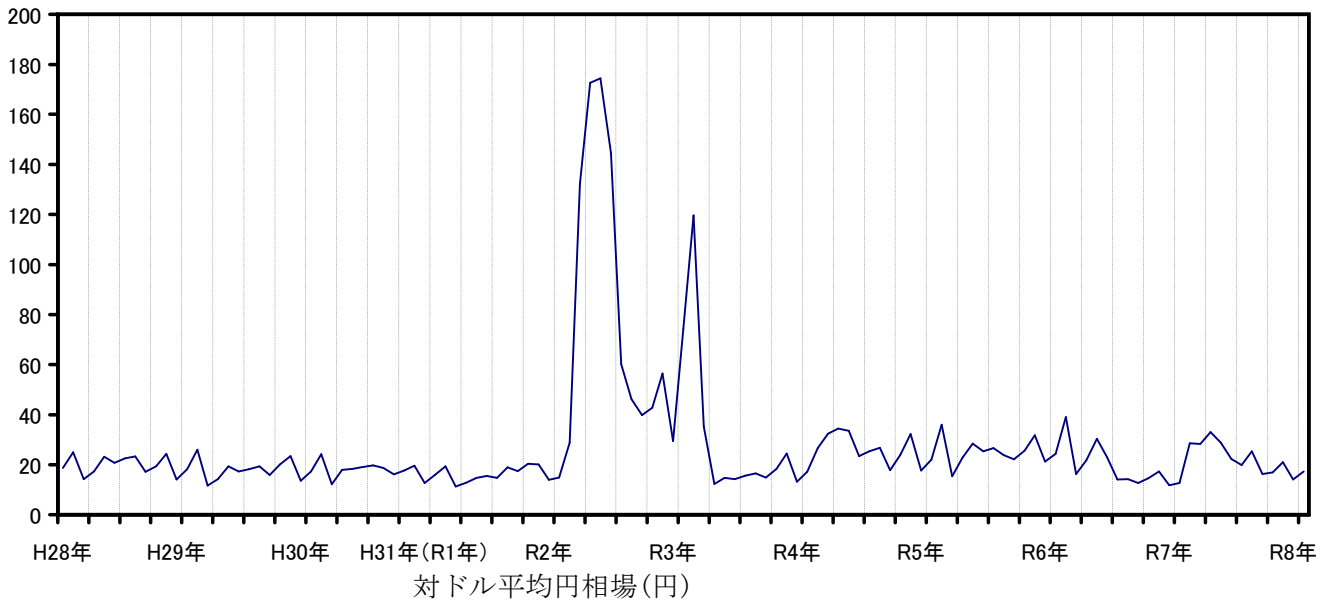
	R 7年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R 8年1月	2月
倒産件数（件）	20	17	29	15	18	27	16	17
前年同月比（%）	▲ 23.1	41.7	38.1	▲ 48.3	38.5	58.8	▲ 15.8	▲ 5.6
うち不況型倒産件数(件)	18	12	25	11	17	20	16	16
負債総額（百万円）	3,548	2,832	3,380	1,693	3,149	3,196	1,710	1,895
前年同月比（%）	▲ 58.0	39.6	18.9	▲ 60.2	132.6	108.9	▲ 15.0	22.7

<資料>(株)東京商工リサーチ静岡支社

<過去10年間の推移>

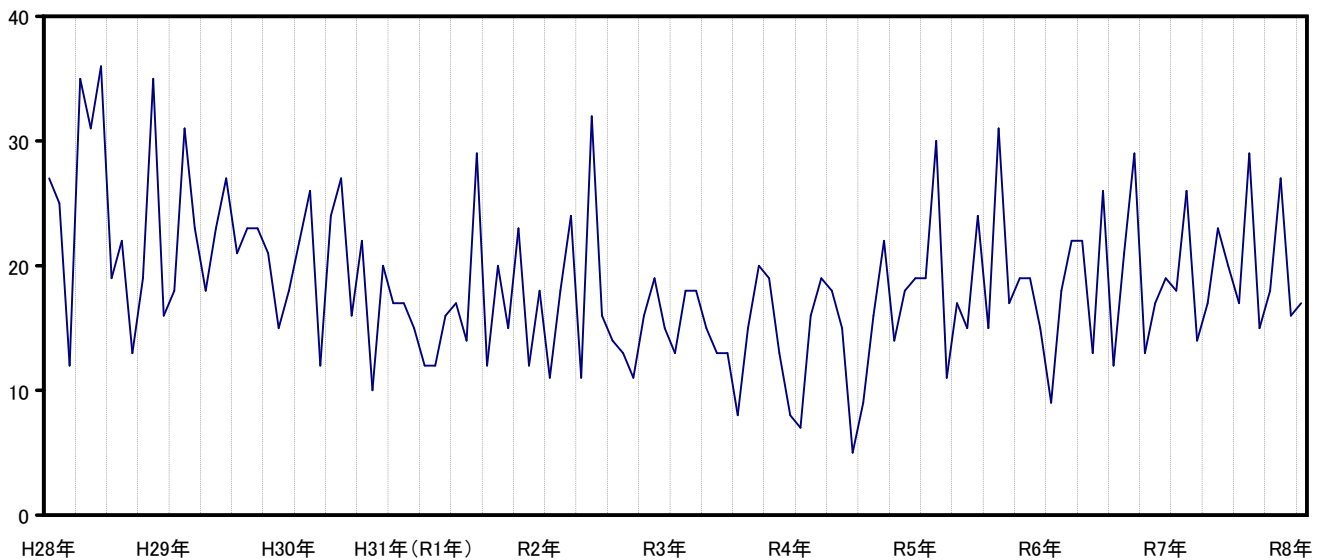
信用保証協会保証承諾金額(十億円)

<資料>県信用保証協会



企業倒産件数(件)

<資料>(株)東京商工リサーチ静岡支社



Ⅲ 令和8年2月を中心とした静岡県主要産業の動向

業 種	産 業 動 向
二 輪 車	<p>令和8年1月の国内二輪車生産台数は、54,761台（前年同月比11.2%減）で、前年実績を下回った。原付第一種（50cc以下）は、997台（同89.4%減）で、前年実績を下回った。原付第二種（51cc～125cc）は、3,628台（同12.9%増）で、前年実績を上回った。軽二輪車（126cc～250cc）は、3,032台（同35.5%増）で前年実績を上回った。小型二輪車（251cc以上）は、47,104台（同0.5%増）で、前年実績を上回った。</p> <p>出荷台数は、国内向けは、20,675台（同16.4%減）で、前年実績を下回った。輸出向けは、39,518台（同16.6%増）で、前年実績を上回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本自動車工業会</p>
自 動 車	<p>令和8年1月の自動車国内生産台数は、677,460台（前年同月比0.6%減）と、2か月ぶりに前年実績を下回った。輸出は298,080台（同0.8%減）と、5か月連続で前年実績を下回った。</p> <p>国内生産は、トラックが5か月連続で前年実績を上回ったものの、乗用車が5か月連続で前年実績を下回ったことから、全体では2か月ぶりに前年実績を下回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本自動車工業会</p>
電気機械	<p>2月の冷蔵庫の国内出荷額は362億円（前年同月比17.4%減）で、5か月ぶりに前年実績を上回った。国内出荷台数は311千台（同23.8%増）で、6か月連続で前年実績を上回った。</p> <p>2月のエアコンの国内出荷台数は、家庭向けは756千台（同14.7%増）で、6か月連続で前年実績を上回った。業務用は63千台（同2.9%減）で、2か月連続で前年実績を下回った。</p> <p>2月の携帯電話の国内出荷台数は、314千台で、前年実績と同水準であった。うち、スマートフォンは、221千台（同1.8%減）で、4か月連続で前年実績を下回った。単月のスマートフォン比率は70.3%であった。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本電機工業会、日本冷凍空調工業会、JEITA/CIAJ</p>
生産用機械	<p>2月の工作機械の受注総額は、1,467億4,400万円（前年同月比24.2%増）で、8か月連続で前年実績を上回った。</p> <p>内訳をみると、外需は1,095億8,000万円（同29.8%増）で、17か月連続で前年実績を上回った。アジア向けが552億円（同34.3%増）で、6か月連続で前年実績を上回った。内需は371億6,400万円（同10.1%増）で、2か月連続で前年実績を上回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本工作機械工業会</p>

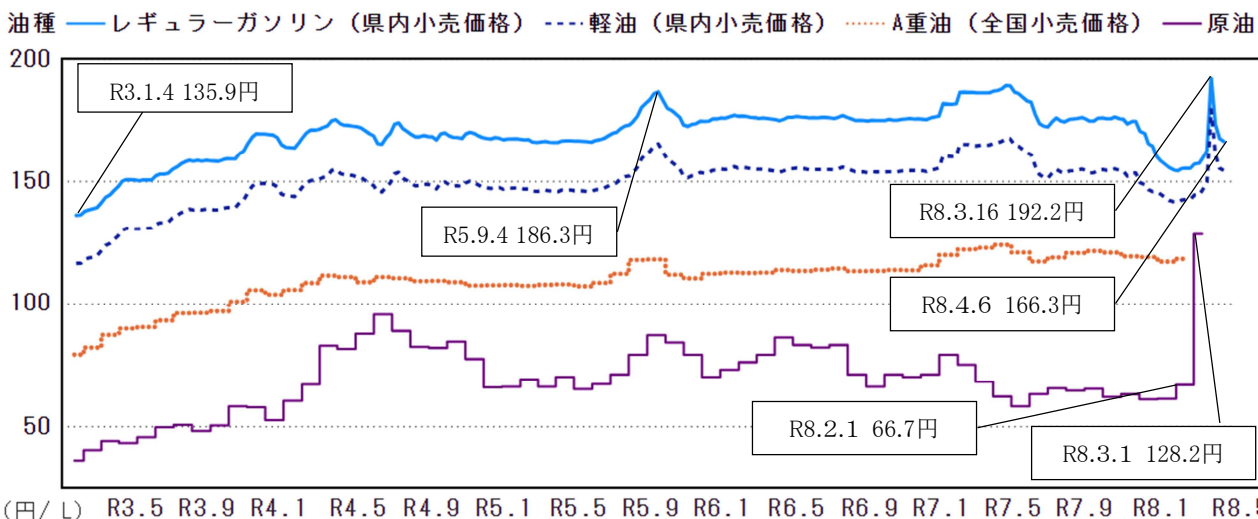
業 種	産 業 動 向
楽 器	<p>2月の県内楽器メーカーの販売金額は、52億4,695万円（前年同月比12.2%増）で、2か月連続で前年実績を上回った。内訳は輸出向けが29億8,348万円（同6.7%増）、国内向けが22億6,347万円（同20.5%増）で、ともに、2か月連続で前年実績を上回った。</p> <p>ピアノ生産台数は1,789台（同8.7%増）で、4か月ぶりに前年実績を上回った。機種別では、アップライトピアノが1,063台（同23.0%増）、グランドピアノが726台（同7.2%減）であった。また、販売台数は、輸出向けが1,329台（同7.0%増）で、2か月ぶりに前年実績を上回り、国内向けが938台（同13.8%増）で、12か月ぶりに前年実績を上回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞静岡県楽器製造協会</p>
紙	<p>2月の紙・板紙の国内出荷高は、1,503千トン（前年同月比 2.5%減）で、13か月連続で前年実績を下回った。内訳は、紙は704千トン（同 4.4%減）で、16か月連続で前年実績を下回った。板紙は798千トン（同0.8%減）と、2か月連続で前年実績を下回った。</p> <p>品種別では、主力の印刷・情報用紙が、356千トン（同 7.5%減）で、16か月連続で前年実績を下回った。ティシュペーパー、トイレットペーパー等の家庭紙は、144千トン（同3.0%減）と、5か月連続で前年実績を下回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本製紙連合会「紙・板紙需給速報」</p>
缶詰・飲料	<p>2月の県内生産量は、食缶類（国内向け）が860千箱（前年同月比1.9%減）で5か月連続で前年実績を下回った。</p> <p>分類別でみると、水産缶（国内向け）が640千箱（同0.2%減）で2か月ぶりに前年実績を下回った。うち主力であるツナ缶は419千箱（同6.0%増）で、3か月連続で前年実績を上回った。</p> <p>農畜産缶（国内向け）は220千箱（同6.5%減）で6か月連続で前年実績を下回った。</p> <p>飲料缶類（国内向け）は、5,611千箱（同2.3%減）で、7か月ぶりに前年実績を下回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞静岡缶詰協会</p>
織 維	<p>2月の広幅織物の県内生産は、707千㎡（前年同月比 15.8%減）で、16か月連続で前年実績を下回った。このうち、綿布が主体の一般広幅織物の生産は、675千㎡（同15.6%減）で、16か月連続で前年実績を下回った。別珍・コールテンの生産は、33千㎡（同19.4%減）で、2か月連続で前年実績を下回った。</p> <p>小幅織物の県内生産は、15千㎡（同3.1%減）で、2か月ぶりに前年実績を下回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞遠州織物工業協同組合、天龍社織物工業協同組合、浜松織物協同組合</p>
家 具	<p>2月の全国百貨店での家具販売額は、26億3,062万円（前年同月比17.1%減）と4か月連続で前年実績を下回った。また、大型量販店での家具・インテリアの販売額は、458億4,446万円（同1.3%減）と6ヶ月連続で前年実績を下回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本百貨店協会、日本チェーンストア協会</p>

業 種	産 業 動 向
小 売 業	<p>2月の県内百貨店・スーパーの販売額は、44,703百万円（既存店前年同月比1.1%増）と前年同月の実績を上回った。品目別に見ると、衣料品、身の回り品、家庭用品及び食堂・喫茶で前年同月の実績を下回ったが、飲食料品及びその他の商品の売上げが前年同月と比較して増加した。</p> <p>中部の百貨店への聞き取りによると、前年同月と比較して売上げ及び来客数が減少した。天候不順やふるさと納税法改正前駆け込み需要の反動減が影響した。また、家電の大口受注により家庭用品は好調だったが、不安定な気温のため身の回り品の売上げが不調だった。</p> <p>中部の専門店への聞き取りによると、前年同月と比較して売上げ及び来客数が増加した。電化製品や映画館の売上げが好調で、特に映画館はこの一年売上げが伸びている。</p> <p>県内の食品スーパー（伊豆）への聞き取りによると、前年同月と比較して来客数及び売上げが減少した。大雪により断水が発生し、来客数、売上げに影響した。大雪と断水のため、弁当・惣菜の売上げは好調だった。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞ 関東経済産業局、静岡県地域産業課</p>
観 光	<p>令和8年2月の県内主要10観光施設の合計入込客数は約31万人で、前年同月比3.6%増となった。</p> <p>イベント終了や天候などの影響により入込が減少した施設もあったが、集客力のあるイベントの実施等により全体の入込は増加した。</p> <p>主要有料道路（4路線）の合計通行車両数は、約57万台となり、前年同月比4.6%増となった。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞ 静岡県観光政策課</p>

＜原油高の状況について＞

中東情勢の不安定化（令和8年2月末～）により、原油価格が高騰した。

これにより、レギュラーガソリンの県内小売価格は、令和8年3月16日に192.2円/Lとなった。令和8年3月19日出荷分から実施された「イラン情勢を踏まえた緊急的激変緩和措置」により、足もとの県内ガソリン小売価格は、166.3円/Lに推移している。



出典：石油情報センター、農林水産省、一般社団法人漁業経営安定化推進協会

IV データからみた県内主要産業

<二輪車>

	R7年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8年1月	2月
完成車生産台数(台)	22,185	23,511	17,383	22,850	25,794	26,857	26,953	27,483	22,857
前年同月比(%)	0.5	2.1	▲11.5	▲2.8	▲6.5	▲8.0	34.7	22.8	▲7.1
KD輸出額(百万円)	1,889	1,404	1,164	1,693	1,596	1,973	2,152	2,257	2,581
前年同月比(%)	163.8	48.3	62.2	180.3	117.9	193.6	22.1	▲2.3	8.6

<楽器>

	R7年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8年1月	2月
生産総額(百万円)	3,624	3,822	2,780	3,530	3,768	3,011	3,258	3,622	3,496
前年同月比(%)	8.5	5.6	6.1	19.3	10.7	▲2.6	14.3	33.0	27.2

<缶詰>

	R7年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8年1月	2月
食缶生産高(千箱)	1,014	999	842	967	1,007	925	936	912	860
前年同月比(%)	3.5	▲4.6	▲3.1	0.2	▲4.7	▲10.3	▲3.3	▲0.3	▲1.9
うち水産缶詰(%)	3.7	▲4.5	▲4.4	1.1	▲0.4	▲6.5	2.2	3.3	▲0.2
農畜産缶詰(%)	2.9	▲4.7	1.1	▲2.7	▲16.5	▲20.8	▲17.7	▲11.3	▲6.5
飲料缶生産高(千箱)	6,643	7,109	7,368	6,504	7,735	6,857	6,365	5,581	5,611
前年同月比(%)	▲8.0	▲6.4	4.3	0.9	13.7	0.3	8.6	17.9	2.3

<繊維>

	R7年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8年1月	2月
広幅織物(千㎡)	647	559	582	678	816	951	808	787	707
前年同月比(%)	▲9.8	▲10.7	▲5.5	▲16.9	▲8.5	▲2.5	▲9.7	▲10.7	▲15.8
小幅織物(千㎡)	16	16	15	16	15	15	18	15	15
前年同月比(%)	▲10.3	▲11.8	▲11.1	▲2.3	▲5.5	▲7.8	▲11.1	1.4	▲3.1

<観光>

	R7年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8年1月	2月
延べ宿泊者数 (千人泊)	1,448	1,893	2,502	1,712	1,877	2,011	1,933	1,575	—
前年同月比(%)	▲6.4	▲7.9	▲3.1	▲5.4	▲0.6	▲1.1	▲4.0	▲3.8	—
観光施設(10施設)入込 (千人)	309	301	444	309	450	560	395	378	309
前年同月比(%)	5.4	1.5	14.0	▲0.8	8.6	39.6	22.8	22.8	3.6
有料道路(4路線)通行 量(千台)	561	632	729	588	594	663	635	569	572
前年同月比(%)	▲3.8	0.9	6.1	0.8	▲2.7	5.6	0.7	0.4	4.6

本書で掲載している県内の主要統計資料の時系列（過去10年間）のデータは静岡県公式ホームページの「統計センターしずおか」で公表しています。

<https://toukei.pref.shizuoka.jp/>

需要面	生産面	雇用面	その他
・大型小売店販売額	・鉱工業生産指数	・有効求人倍率	・国内企業物価指数
・専門量販店等販売額	・鉱工業在庫指数	・雇用保険受給者実人員	・県内金融機関貸出残高
・自動車新規登録台数		・完全失業率	・信用保証協会保証金額
・新設住宅着工戸数		・所定外労働時間指数	・企業倒産件数
・清水税関支所管内輸出額			
・清水税関支所管内輸入額			

提供いただいている資料

資料名	提供元	ホームページアドレス
公共工事請負金額	東日本建設業保証（株）	https://www.ejcs.co.jp/report/public-works/prefecture/
設備投資	日本銀行静岡支店	https://www3.boj.or.jp/shizuoka/index.html
貸出約定金利		
国内企業物価指数	日本銀行	https://www.boj.or.jp/statistics/index.htm
円相場		

参考となる全国の資料等

資料名	提供元	ホームページアドレス
鉱工業生産指数	経済産業省	https://www.meti.go.jp/statistics/index.html
大型小売店販売額		
専門量販店等販売額		
輸出入	財務省	https://www.mof.go.jp/statistics/
国際収支		
機械受注	内閣府	https://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/juchu/juchu.html
完全失業率	厚生労働省	https://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/toukei/
有効求人倍率		

静岡県月例経済報告
令和8年4月号 通巻600号

発行 静岡県経済産業部
令和8年4月

編集 経済産業部政策管理局産業政策課

〒420-8601

静岡市葵区追手町9-6

TEL 054-221-2635

FAX 054-221-3217

E-mail sangyo-seisaku@pref.shizuoka.lg.jp

URL <https://www.pref.shizuoka.jp/kensei/introduction/soshiki/1002123/1041026/1025441.html>